

奈良県立医科大学

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

Special Feature

vol. **96** 2026
春号

学長就任挨拶

令和8年度入学式を挙行了しました



奈良県立医科大学
Nara Medical University

Contents

特集

学長就任挨拶	3
令和7年度 卒業式	4
令和8年度 入学宣誓式	6
未来への飛躍基金だより	7
退任の挨拶	8
就任の挨拶	8
令和8年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算	10
国際交流センターだより vol.23	12
先端医学研究支援機構だより	14
図書館だより	16
看護部の紹介	17
MBT 研究所だより (第40報)	18
Topics	19

Campus News

研究費のご寄附をいただきました	20
西日本医学生学術フォーラム2025 で発表しました	20
奈良女子大学との医工連携見学実習を開催しました	20
MBT 難病克服支援WEB セミナーを開催しました	21
CCOI Asia-Pacific InnovationForum 2026 に参加しました	21
奈良臨床漢方医学薬学セミナーを開催しました	21
令和7年度地域基盤型医療教育協力施設講演会を開催しました	21
医学看護学合同教育科目「奈良学」を開講しました	22
TQM 大会・表彰式を対面開催しました	24
NARA 医工連携イニシオを開催しました	24
第2回おしゃれターバンケア帽子体験会を開催しました	25
「分子をミル」創薬基盤の完成	25
Forbes Japan で紹介	25
日本神経学会主催「産官学イノベーションスクール」の教育講演を行いました	25
令和7年度 リサーチ・クラークシップ成果発表会を開催しました	26
共同研究助成事業 成果報告会を開催しました	27

Winner Report

第29回日本神経感染症学会総会・学術大会において会長賞を受賞しました	27
第33回日本消化器関連学会週間において優秀演題賞を受賞しました	27
国際的AI開発コンテスト【AI Genesis Hackathon】で総合優勝しました	28
令和7年度奈良県医師会学術奨励賞を受賞しました	28
第95回日本感染症学会西日本地方会学術集会・ 第73回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会にて優秀賞を受賞しました	28
ASH2025においてAbstract Achievement Awardを受賞しました	28
第132回日本神経学会近畿地方会優秀演題賞を受賞しました	29
令和8年度野澤記念研究助成金に採択されました	29
日本医学放射線学会 第36回骨軟部放射線研究会フィルムリーディングセッションにて1位を受賞しました	29
第18回近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会において最優秀賞を受賞しました	29
令和7年度 学位授与の状況	30

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました	30
-------------------------------	----

Information

公開講座情報	31
令和8年度入試結果	31
編集後記	31
メディア掲載情報	32

常に未来の医療を創造する医科大学をめざして

4月1日付で奈良県立医科大学学長を拝命いたしました嶋 緑倫です。

これまで、研究部長・医学部長として12年間、大学の運営に携わって参りましたが、このたび、学長という重責を担うにあたり、改めて身の引き締まる思いです。昨年の開学80周年、そして畝傍山キャンパス開設という節目を経て、本学の新たな歩みを担当する機会を頂きましたことを、大変光栄に存じます。現在、医科大学を取り巻く環境は大きく変化しており、医学教育の量的・質的拡大、基礎研究における国際的競争力の低下、病院経営の改善、そして、社会への責任と貢献など、多岐にわたる課題に直面しています。私は学長としてこれらの課題に向き合い、本学を「常に未来の医療を創造する医科大学」へと進化させていくことを目標に掲げ、以下の「基本軸」を中心に全力で取り組む所存です。



学長 嶋 緑倫

1. 未来を拓く人材育成

目標達成において最も重要な軸は優秀な人材の育成です。今日、社会は予測困難な時代を迎えています。科学技術、特にAIや情報科学の進歩は目覚ましく、医学分野においても画像解析を中心に広く応用されています。これからの医療人にとって、デジタルリテラシーは必須の素養です。一方で、AIには代替できない「人間力」--- 高い倫理観、患者さんへの共感力、チーム医療を支える力、そして不測の事態に対処できる能力 --- などがこれまで以上に求められます。私は、「デジタル力」と「人間力」を兼ね備えた人材を育成したいと考えています。これを実現するため、昨年に新設された二つのAI関連講座(数理AI医学講座、応用システム医科学講座)を核として、学生のみならず全職員を対象としたAI/DX教育を推進します。また、人材育成におけるもう一つの重要な鍵は、学生ひとりひとりの可能性を最大限に引き出す「出る杭を見つけて伸ばす」教育の実践です。水平・垂直統合などの教育改革を敢行し、様々な教育プログラムを通じて次世代を担う医師・看護師を育成してまいります。あわせて、すべての職員を「医療人」と捉え、キャリアアップ支援と生涯学習の推進にも力を注ぎます。

2. 研究力の向上

大学の實力を評価するうえで、研究力は重要な要素です。その主な指標となるのが、公的研究費獲得や論文の量的質的アウトプットです。本学における科研費の採択件数は、令和6年度76件、令和7年度81件、令和8年度95件と着実に増加しています。一方で、論文数、特に、トップ10%の論文については、やや減少傾向がみられます。今後、研究力を持続的に向上させていくためには、研究支援の充実に加え、研究時間やマンパワーを確保するための方策が不可欠です。このため、本学では、4名のURAを擁する研究力向上支援センターの機能を一層強化し、戦略的研究支援を展開していきます。あわせて、研究支援員の拡充など研究体制の強化を図るとともに、若手研究者の交流拠点「奈良医大アゴラ」を創設し、研究マインドの醸成と次世代研究者の発掘や育成を推進します。さらに、知的財産の適切な保護と産学官連携の強化を通じて、研究成果の社会実装へと繋げてまいります。

3. 医工情報連携と国際交流の深化

更なる研究力向上の鍵は、医工連携、AI活用、そして産学連携の深化にあります。一昨年に設立した「奈良先端医工科学連携機構(MSTeC NARA)」を中核として、医工連携を発展させるとともに、AIシステム医学融合イノベーションセンターを中核として、学内外の医・工・情報の融合を加速します。また、海外留学支援や若手研究者の海外派遣を充実させ、連携協定を結ぶ7大学との交流を一層深化させます。

4. 持続可能な大学経営と地域貢献

本学は他の大学附属病院と同様に厳しい経営環境に置かれています。この状況を改善するため、データに基づく稼働率向上や新患者・手術件数の増加など、多面的かつ戦略的経営改革を推進してまいります。併せて、経営企画・戦略部門を強化し、医療DXを強力に推進することで、経営基盤の強化と業務の効率化を実現していきます。

本学は年間500億円以上の収益規模を有し、診療ポテンシャルは極めて高いものがあります。各部門が一体となり、積極的に関連病院や医師会との連携、役割分担を進めることで、病院経営は改善できると考えています。また、奈良県医療体制の中核を担う大学として、県の医療水準の向上と県民の健康増進に貢献することにより、本学の存在意義をより一層高めてまいります。加えて、本学の同窓会との連携を密にして大学の発展に取り組んでいきたいと考えています。

現在、令和13年完成を目指し、新A棟改築プロジェクトが進行しています。加えて、医大新駅やスポーツアリーナの整備が進むことで、四条・畝傍山キャンパスと相まって、橿原市を中心とした「医療と歴史の街」が形づくられようとしています。これは、本学の将来にとって、またとない好機です。広大な畝傍山キャンパス活用を含め、奈良医大から発信するプロジェクトに英知を結集し、大学のさらなる発展につなげてまいります。

5. 「働きがいのある大学」の実現

これらの方針を前進する土台となるのが、「働きがいのある大学」の実現です。厳しい医療情勢の中にあっても持続的に発展していくためには、本学ならではの強みや特色を積極的に発信するとともに、これまで十分に踏み出せなかった取り組みにも、挑戦していく必要があります。そのためには、教職員一人ひとりが同じ方向を見据え、力を合わせて前進できる環境づくりが不可欠です。努力が正しく評価され、互いの仕事を尊重し支え合える、「働きがいのある職場環境」こそが、未来の医療を創造する大学としての原動力になると確信しています。

「常に未来の医療を創造する医科大学」を実現するためには、これまで述べてきた五つの基本軸が、歯車のようにしっかりと噛み合い、継続的に回り続けることが重要です。どれ一つ欠けても前進はありません。皆様の英知を結集し、建設的な議論を重ねながら、5つの歯車を確実に動かし、目標に向かって、皆様と共に歩みを進めていきたいと考えています。

どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

令和7年度 卒業式

式辞

学長 細井 裕司

奈良医大は一生涯の宝

春の訪れを感じる今日の良き日に医学部医学科 101 名、医学部看護学科 79 名、合計 180 名の卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。また、卒業する学生を今日まで慈しみ、支え、育ててこられた、ご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。公務ご多忙の中御臨席いただきました、奈良県知事 山下 真様 はじめ、ご来賓並びに関係各位に心から厚く御礼を申し上げます。

皆さんの在学中の出来事を少し振り返りたいと思います。

入学式：医学科の皆さんは、6 年前、奈良県立医科大学に希望を抱いて入学されました。コロナ禍のさなかであり、新入生が出席しない極めて異例の入学式となりました。一生のうちにはいろいろなことが起こることがあると心に刻まれたのではないのでしょうか。看護学科の皆さんは、令和 4 年度の入学です。希望に満ちて入学され、4 年後の今、実力をつけて次のステップに進まれます。通常の入学式を行うことができました。

白衣授与式：Student Doctor の表示が見えます。医学科の皆さんは医師に、看護学科の皆さんは看護師に近づいてきました。医学・看護学修得の意欲がますます大きくなってきた頃です。

学外実習：本学では、学外実習を積極的に行って参りました。皆さんの学年のリサーチクラブシップはコロナ禍のため海外で行うことができませんでしたが、国内の 19 施設で研修を行いました。ポリクリについては、ドイツ、イギリスで臨床実習が行われました。先輩やご父兄の寄付による「未来への飛躍基金」の援助のもと、学外の多くの人と接することができました。

MBT 特命教授による特別講義：私は、医学界の第一線で活躍される方々に接することは大変重要であると考えていますが、それと同時に、医学以外の分野で活躍されている方々の考えに触れることもまた、同様に大切であると考えています。そこで、経済界をはじめ各界の著名人に本学の特命教授にご就任いただき、学生が直接接する機会を設けることで、広い視野を持った人間として成長してほしいと心がけてきました。これまでに、DMG 森精機株式会社代表取締役社長の森雅彦様、パナソニック株式

会社代表取締役会長を務められた長榮周作様、コシノジュンコ様をはじめ、各界の著名な方々にご講義いただきました。

アントレプレナーシップ：アントレプレナーシップとは「新しい事業分野を起こそうとする精神」です。新しい事業分野を切り開くために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さのことを意味しています。医師、看護師においてもこの精神は重要です。大学発ベンチャーを起こすことによって、アントレプレナーシップの環境を整備しました。

皆さんの未来・卒業後

皆さんの卒業後も奈良医大は進化して参ります。皆さんは奈良医大を卒業された後も母校奈良医大と強い繋がりをもって世の中に出られます。近い将来の奈良医大の発展の一端を示します。

現在、AI は画像診断に限らず、医学の全分野に大きな影響を及ぼすようになってきました。奈良医大が医学の分野でトップランナーになるべく、AI システム医学融合イノベーションセンターを開設しました。3 講座を予定しており、数理 AI 医学講座と応用システム医科学講座の 2 講座の専任教授が決定しました。この 4 月から順次着任いただきます。メディカル AI の分野で日本を代表するセンターになるでしょう。

AI に限らず医学にとって工学の知識、技術は重要です。奈良医大を、日本を代表する医工学の医科大学にするため、2024 年 12 月 25 日奈良先端科学技術大学院大学と共に、奈良先端医工科学連携機構を設立し、2025 年 3 月 26 日にはこの機構が文部科学大臣により大学等連携推進法人に認定されました。これにより、医科の単科大学である奈良医大は高い理工学技術を持つ奈良先端大と共同でイノベーションを起こす基盤ができました。

国際連携も教育、研究、臨床すべてにわたって奈良医大の発展に重要です。とりわけノーベル賞受賞者 25 人を擁するミシガン大学とは強い連携を構築しております。AI の分野においても、ミシガン大学との共同研究を計画しています。AI における世界的権威のミシガン大学のエイシー教授には、奈良医大 80 周年記念式典で特別講演を行っていただきました。両大学の叡智により日本だけでなく世界をリードする AI センターになることを期待しています。皆さんには、卒業された後も、AI に限らず、奈良医大の力を活用していただきたいと思います。



医学科卒業生

施設については、新病院棟が2031年度竣工予定、近鉄の新駅とアリーナが2030年度開設予定です。奈良医大には5つの病院棟がありますが、A棟は建て替えの時期に来ており、山下知事をはじめとする県当局と医大の協議によって建設の骨格が決まりました。近い将来、病院の最新の設備と駅を含めた周辺の整備により新しい奈良医大をご覧いただけたと思います。

贈る言葉

私がなぜこのような話をしたのか、それは、皆さんが、独自の視点と考えを持った、挑戦し続ける医科大学で学んだ医師や看護師であることに誇りを持っていただきたいからです。この進取の気性に富んだ大学で育ったことは、皆さんの将来において「挑戦する人、挑戦し続ける人」になることの土台になると

思います。そして、独自の視点、独自の考え、挑戦する意欲を持つことによって、卒業後、日本でそして世界で存在感のある人に成長していくでしょう。式辞を終わるにあたり、ある言葉を贈りたいと思います。それは「挑戦する人か、文句を言う人か」です。皆さんは持って生まれた素晴らしい素質に恵まれ、奈良医大に入学され、そして奈良医大で大きな能力を身につけて卒業されます。今後この能力を生かすかどうかは、挑戦する人になるのか、挑戦する人に文句を言う人になるのかでは皆さんの一生に大きな相違が出てきます。もし皆さんが「文句を言う人」になっているのではないかと感じられたら「挑戦する人」になるように転換してください。人生がきっと豊かになります。

再度述べます。「挑戦する人か、文句を言う人か。」

本日は本当におめでとうございます。



看護学科卒業生

新たなる旅立ち（医学部卒業式 大学院修了式 令和8年3月10日）

今年も229名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。（229名：医学科101名、看護学科79名、大学院医学研究科博士課程34名、同修士課程6名、看護学研究科博士前期課程9名）

また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。（敬称略）

◆奈良県立医科大学学長賞

医学科6年間または看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を収めた者

医学科：山名 智尋

看護学科：浦島 華子

◆医学科同窓会厳糧賞、看護学科同窓会華糧賞

①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者

（ヒーローオブザクラス）

②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者

③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳糧賞：朝井 啓斗、結束 魁、小泉 智花

華糧賞：高岡 泰大、松原 実来

学長賞受賞者



医学科 山名 智尋

この度は学長賞という栄誉ある賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。医学科で学んだ6年間の努力をこのような形で評価していただき、大変うれしく思います。

振り返れば入学当初はコロナ禍で制限もありましたが、先生方の手厚いご指導により学ぶことの面白さや医学の奥深さを知ることができました。また、臨床実習など国内外での研修の機会をいただいたことは大きな財産となりました。支えてくださった職員の皆さま、共に切磋琢磨した友人、いつも応援してくれた家族をはじめ、関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。

卒業後も大学での学びを糧に、医師として社会に貢献できるよう、より一層精進してまいります。この度は誠にありがとうございました。



看護学科 浦島 華子

この度は学長賞という名誉ある賞をいただき、身に余る光栄と感じております。私にとって今般の受賞はこれまでの大学生活を振り返る貴重な機会となりました。この4年間での様々な経験・学びを通して、より看護の魅力に気付くことができました。これまで指導してくださった先生方、臨床指導者や医療従事者の方々、受け持たせていただいた患者さま、そして家族や友人といった多くの支えの元、自分自身の看護観の芽を育てることができました。自分1人の力では気が付くことのできなかつた看護の奥深さに触れられたこと、心より感謝申し上げます。

今後も大学での学びを胸により一層精進して参ります。最後になります

が、この度の受賞に厚く御礼申し上げます。

令和8年度 入学宣誓式

式辞

学長 嶋 緑倫



春爛漫の今日のこの良き日に、医学部医学科111名、医学科2年次編入学生3名、医学部看護学科85名、合計199名の新生の皆さんを、この奈良県立医科大学畝傍山キャンパスに迎えることができましたことは、私どもの大きな喜びです。新生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。奈良県立医科大学を代表して、心から歓迎の意を表します。また、今日まで皆さんを温かく支え、育ててこられた、ご家族の皆様にも、心からお慶びを申し上げます。

本日は、ご多忙の中、奈良県知事 山下 真様をはじめ、ご来賓の皆様にご臨席を賜りましたことに、厚く御礼を申し上げます。

さて、皆さんがこれから学びを深める奈良の地は、日本の医療の原点ともいべき場所です。奈良時代には東大寺に「施薬院」が設けられ、身分の隔てなく人々を救う医療と福祉の制度が芽生えていました。また、江戸時代には宇陀の地で薬草文化が花開き、奈良はわが国の創薬の中心として発展しました。千三百年の時を超えて受け継がれてきた「人を救う志」は、奈良県立医科大学、そして皆さんに託されています。

本学は、「最高の医学と最善の医療をもって地域の安心と社会の発展に貢献します」という建学の精神を掲げています。この言葉には、医学という高度な科学を究めるだけでなく、その成果を人に寄り添う医療として実践し、地域と社会に責任を果たすという、本学の揺るぎない使命が込められています。

本日入学された皆さんは、この理念を受け継ぎ、未来の医療へと新たに紡いでいく担い手です。

現代の医療は大きな転換期にあります。分子レベルの解析、ゲノム医療、ロボット手術、そして医療デジタルトランスフォーメーション(DX)の波は、医療の在り方を根本から変えつつあります。とりわけ人工知能(AI)は驚くべき勢いで進化し、膨大なデータを瞬時に解析して、人間の能力を補完し、時に凌駕する存在になりつつあります。皆さんが医療の第一線に立つ頃には、AIは診療の現場に不可欠なパートナーとなっていることでしょう。

しかし、どれほどAIや技術が進歩しても、病を抱えた患者さんの不安に寄り添い、ともに最善の道を考え、最終的な判断と責任を担うのは「人間」です。医療の根幹にあるのは、「人の尊厳」を理解し、守り抜こうとする姿勢です。これからの医療人には、AIを使いこなす確かな技術とともに、高い倫理観、共感力、コミュニケーション力、そして予想困難な状況での迅速な判断力とチームで協働する「人間力」が求められます。

そのために、これから始まる大学生活において、三つの姿勢を大切にしていきたいと思います。

第一に、「問続けること」です。与えられた知識をそのまま鵜呑みにするのではなく、「なぜそうなるのか」、「もっと良い方法はないか」と問い、自ら考える姿勢を身に付けてください。その積み重ねが、皆さんの力を深化させる原動力となります。

第二に、「越境する学び」です。これからの医療は医学や看護学だけで完結するものではありません。本学でも、奈良先端科学技術大学院大学と奈良先端医工科学連携機構を設立するなど、異なる分野との融合を進めています。分野の枠を越えて学ぶことが、皆さんの可能性を無限に広げます。

第三に、「挑戦と経験」です。私は、かつて、留学後に参加した国際シンポジウムで質問に全く答えられず、大きな挫折を経験しました。しかし、その経験をきっかけに挑戦するという気持ちに切り替え、国際学会で議論できるようになりました。心理学者キャロル・ドゥエックは「人間の能力は、努力や経験によって後天的に伸ばすことができる」と提唱しています。困難に直面しても、それを成長の機会と捉え、失敗を恐れず挑戦を続けてください。その積み重ねが、皆さんを大きく成長させます。

結びに、皆さん一人ひとりが、本学の建学の精神を胸に刻み、知性と人間性を兼ね備えた医療人として成長されることを、心より願っております。

皆さんの歩みが、地域と社会、そして人々の健康と福祉に貢献するものとなることを祈念し、式辞といたします。



未来への飛躍基金だより

紺綬褒章伝達式を執り行いました

未来への飛躍基金にご寄附をいただきました大植睦氏（医学科卒業生保護者）に対し、紺綬褒章が授与されました。12月18日に本学において伝達式を執り行い、細井前理事長・学長から褒章と章記を伝達するとともに、ご寄附への感謝の気持ちをお伝えしました。



令和7年12月18日伝達式
左から細井前理事長・学長、大植睦氏

紺綬褒章のご案内

紺綬褒章は国の褒章制度の一つで、公益のために私財を寄附された方に授与される褒章です。未来への飛躍基金に500万円以上のご寄附をいただいた方（個人）及び1,000万円以上のご寄附をいただいた団体は、紺綬褒章授与の対象となります。あらかじめ分納のお申し出をいただいたご寄附も含まれます。未来への飛躍基金にご寄附をいただき、紺綬褒章申請を希望される場合は、分納のお申し出と合わせて総務広報課までお問合せください。

未来への飛躍基金へのご支援をお願いします

平素より、未来への飛躍基金へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本学では、未来の奈良県の医療を担う医学科・看護学科学生への教育・研究の充実や修学環境の整備等を推進するため、また、畝傍山キャンパスの施設整備等に対応するため、未来への飛躍基金へのご寄附を広く募っております。皆様には従前より「未来への飛躍」基金へのご支援をいただいているところですが、基金設置の趣旨にご理解とご賛同をいただき、更なるお力添えを賜りますよう、引き続きご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様からいただいたご寄附は、教育、研究及び診療活動への支援、大学及び附属病院の施設整備等、以下のとおり幅広く活用させていただきます。

01 国際性豊かな人材の育成

- *学生の海外派遣実習・研修への助成：
リサーチ・クラークシップ、臨床実習、海外留学、その他海外研修等
- *研究者の海外留学への助成
- *臨床英語での教育活動への助成
- *英文校正費用助成
- *APC助成事業
- *Glow up Supportプログラム推進事業

02 施設・設備の機能充実

- *大学の設備充実：研究用備品の整備

03 高度な研究や医療の提供体制の整備

- *臨床研究の推進
- *オートファジー・抗老化センターへの支援
- *AIシステム医学融合イノベーションセンターへの支援

04 クラブ活動への助成

- *クラブ活動に必要な設備整備や物品等の購入などを支援：
水道施設、テニスコート倉庫、プール使用料の助成等



グラウンド防球ネット（畝傍山キャンパス）



実験中（リサーチ・クラークシップ）



テニスコート防風ネット（畝傍山キャンパス）

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL：0744-22-3051（内線2803） E-mail：hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.naramed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



退任の挨拶



理事長・学長 細井 裕司

12年の長きにわたり理事長・学長を務めることができましたのは、教職員の皆様、学生の皆様、卒業生の皆様、そして本学を支えてくださった多くの皆様の温かいご支援のおかげと心より感謝申し上げます。教授時代を含めると、27年間本学にお世話になりました。その間多くの出会いに恵まれ、本学とともに歩むことができましたことは、私にとってかけがえのない喜びであり、大きな誇りでもあります。今後は嶋 緑倫先生に本学の歩みを託し、本学がさらに発展していくことを心より願っております。長年にわたり賜りましたご厚情に、あらためて深く御礼申し上げます。



副理事長 柘井 和也

副理事長として、理事長・学長の卓越したリーダーシップの下、すべての重要な意思決定に参画させていただくとともに、法人運営全般に取り組みさせていただきました。コロナ禍から畝傍山キャンパス開校まで、5年間の出来事を数えると枚挙にいとまがありません。この間、みなさまに大変お世話になりましたこと、深く御礼を申し上げます。奈良医大は、法人として永続的に発展する合理的な仕組みが整備されています。これらの仕組みの効果を最大限に発揮させるのは、やはり生身の人の熱意、努力です。医療を取り巻く環境が厳しくなる中、教職員のみならず、前進し、益々発展し、奈良から世界へ輝く未来へ道を拓かれんことを心から願っております。



泌尿器科学 教授 藤本 清秀

令和8年3月末で本学泌尿器科学講座教授を退任いたしました。昭和55年に本学へ入学し、昭和62年の泌尿器科学教室入局から退職まで、留学や関連病院勤務を除くと40年近くを奈良県立医科大学で過ごしてまいりました。自身の学校、職場、家庭のようでもあった奈良県立医科大学には学生時代からの星の数ほどの思い出があり、そのすべてが私の心の大きな財産となっています。これまでお世話になりました奈良県立医科大学の皆様へ心より感謝を申し上げますとともに、奈良県立医科大学の今後益々の発展と皆様のご健勝を祈念いたしながら、退任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました！

就任の挨拶



副理事長 木村 茂和

昨年度1年間、総務・経営担当理事として任務を全うできるよう努めて参りましたが、すべての教職員の皆様方のご協力により何とか乗り切ることができました。心より感謝申し上げます。

そして、この度、4月1日付で副理事長を拝命いたしました。12年ぶりに理事長が交代となり、新たな奈良医大を作り上げていくこの時期に、副理事長という重責を与えられたことは光栄なことであると感じております。3名の理事と共に嶋理事長を支え、本学のさらなる発展のため、誠心誠意、全力で取り組む所存ですので、教職員の皆様方のさらなるご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



総務・経営担当理事 事務局長 西橋 奈穂

このたび、理事（総務経営担当）兼事務局長を拝命いたしました。令和6年4月から2年間、病院経営部長を務めてまいりましたが、十分な成果を残せたとは言えず、今回の就任にあたり重責に身が引き締まる思いです。

奈良医大は、昨年、創立80周年を迎え、新キャンパスも開設されました。本年からは嶋新理事長のもと、新たな体制で次の一歩を踏み出します。附属病院の新A棟の建設や新駅を中心としたまちづくりの計画も進んでいます。微力ではございますが、教職員・学生の皆さまとともに、大学、病院の発展に貢献してまいります。



教育・研究担当理事 副学長 医学部長 附属図書館長 堀江 恭二

このたび医学部長を拝命いたしました。本学では現在、教育課程の再編や外部研究機関との連携強化など、教育・研究の両面にわたり重要な改革が進められております。これまでの6年間、基礎教育部長として学生教育および大学運営に携わり、多くの学びを重ねてまいりました。これらの経験と、基礎医学の教員として、教育・研究の現場に近い立場からの視点を活かし、本学のさらなる発展に尽力してまいり所存です。重責に身の引き締まる思いではございますが、皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



医療担当理事 副学長 附属病院長 吉川 公彦

この度、4月1日付で医療担当理事、副学長、附属病院長4期目を拝命致しました。当院は、奈良県内で唯一の「特定機能病院」として、高度で専門的な医療を提供するとともに、地域医療を支える中核的な医療機関として、重要な役割を担っています。私たちは、「患者さんに寄り添う医療」を基本理念に掲げ、病状や治療方針について丁寧かつ分かりやすい説明に努め、患者さんの意思を最大限に尊重した最適な医療の提供を目指しております。今後も職員一同、研鑽を重ねながら、信頼される医療の実現に尽力してまいりますので、引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

就任の挨拶



研究部長 医学研究科長 吉栖 正典

この度、4月1日付で研究部長、医学研究科長4期目を拝命いたしました。理事長・学長が細井先生から嶋先生に代わり新しい体制が発足しました。私は今まで、3期6年間の研究部長職にあり、本学の研究環境の整備に努めてまいりました。2024年に策定された「総合研究棟グランドデザイン策定委員会」の提言に従い総研棟の改善がなされました。未来への飛躍基金の補助を受けて、動物用PET-CTの導入や共焦点顕微鏡の充実などイメージ・コアファシリティとも呼べる研究機器がそろいつつあります。また、URAの先生方が4名に増えたおかげで、過去最多件数の科研費の獲得が達成されました。医師の働き方改革などの影響を受けて若い先生方の研究時間が減る中で、今後は研究補助などの人的サポートの充実を残りの任期で達成したいと考えています。すべての教職員の皆様方のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



医学科長 伊藤 利洋

このたび医学科長を再度拝命し、身の引き締まる思いであります。医学科長は医学科の教育と入学試験を担う重要な役割であり、その責任の重さを改めて感じております。本学が進める「教育改革2027」を着実に推進し、教職員の皆様と力を合わせながら、次代の医療を担う人材の育成に努めてまいります。大学全体の発展に貢献できるよう尽力してまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



看護学科長 看護学研究科長 川上 あずさ

この度、看護学科長、看護学研究科長に再任されました。前任の2年間は、改訂モデルコアカリキュラムを反映させた教育内容の修正、看護学教育評価の受審、2024年に開設した看護学研究科博士後期課程の運営等に取り組んでまいりました。昨年、新キャンパスへ移転し新しい環境で気持ちも新たに教育・研究活動を進めています。教育評価は適合との結果をいただきました。看護学科・看護学研究科の充実と発展のために、尽力していきたいと考えております。引き続き皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願い致します。



教養教育部長 酒井 宏水

新キャンパスで2回目の春を迎えました。南側真向かいの畝傍山は、四季折々の風景を楽しませてくれます。南東には神武天皇と綏靖天皇の陵墓があり、静謐さと悠久の歴史を感じさせてくれます。恵まれた環境で教育と研究に専念でき、有難く思います。さて、医学科・看護学科の一般教育組織を統合し教養教育部門になってから12年目となりました。「奈良学」をはじめとする医看合同科目は、本学の特色ある科目として定着してきました。変化の多い時期に教養教育部長に再任され、責任の重さを感じています。引き続き宜しくお願い致します。



基礎教育部長 佐伯 圭吾

この度、基礎教育部長を拝命いたしました。教養教育を履修した学生が、スムーズに基礎医学の学習に取り組めるように、対話を大切に、支援していきたいと考えています。また基礎医学教育をご担当される先生方が円滑に実習や講義を進められるよう、環境づくりにも取り組んでまいりたいと存じます。振り返りますと、自身の学生時代は多くの先生方のご指導に支えられていました。その感謝の気持ちを忘れず、職務に取り組みたいです。ご支援とご協力をお願い申し上げます。



臨床教育部長 庄 雅之

この度、臨床教育部長を再度拝命いたしました。医学教育の大きな変革が求められる中、本学では診療参加型実習の充実を柱として、各科教育主任の先生方と毎月の委員会を通じて、緊密に連携しながら臨床教育の質向上に取り組んでおります。今後も堀江医学部長、若月教育教授、教育開発センター、教育支援課等事務部門と協力し、学生および将来の患者さんのため、本学の臨床教育をさらに高い水準へ発展させてまいります。教職員、看護部、病院スタッフの皆様には、引き続き温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



看護教育部長 坂東 春美

このたび、看護教育部長を拝命いたしました。本学における看護教育の歴史と使命を踏まえ、教育・研究・地域貢献を統合した視点のもと、多様化する健康課題に対応できる質の高い看護職の育成を目指してまいります。また、学生一人ひとりの成長を支えながら、教育の充実と質保証および学修支援体制の強化に向け、関係教職員の皆様と緊密に連携してまいります。今後とも、看護学科のさらなる発展のため、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

令和8年度は、中期目標の達成及び中期計画の遂行のため、引き続き必要な予算については県等からの支援を活用するとともに、収入確保や経費削減等を前提とした予算編成を行いました。

予算規模としては、診療報酬改定を始めとした附属病院収入の増、それに伴う診療経費の増、人勧等による人件費の増が見込まれるほか、医療情報システム更新や学内の老朽化設備の更新といった施設整備の経費増が見込まれるため、令和7年度の665.9億円と比較して、98.4億円増の764.3億円となりました。

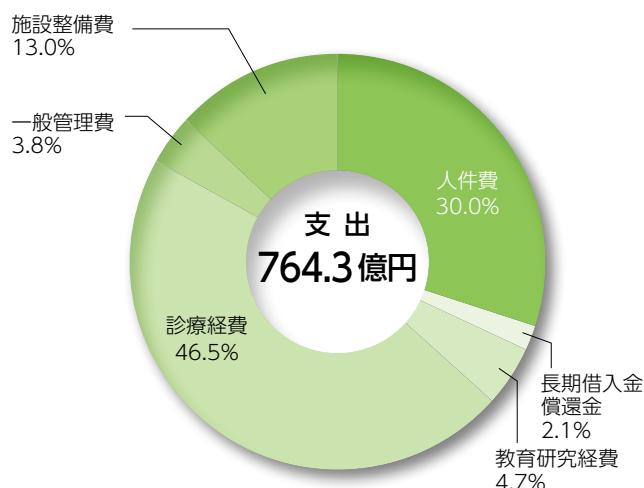
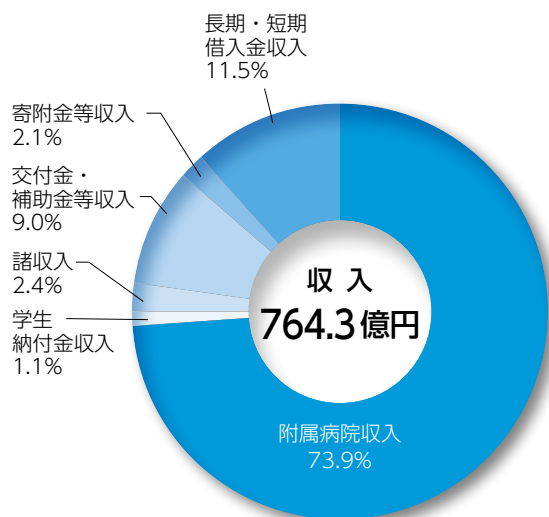
令和8年度は主に、研究力の向上に向けた研究施設設備・機能や支援体制の充実、医療DXの推進や次期総合医療情報システムの更新準備をはじめ、第4期中期計画にある「教育の質の向上」、「最善の医療に貢献する最先端の研究の実施」、「県内基幹病院として機能の充実」など、法人の将来を見据えた取組を行います。

法人の更なる発展のため、中期計画の円滑な遂行、効率的な法人経営の推進について、教職員の皆様には、それぞれの分野でのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

令和8年度予算の内容

項目	予算額	構成比
収入		
法人が自ら得た収入 (自己収入)	591.7億円	77.4%
附属病院の診療報酬等 (附属病院収入)	564.5億円	73.9%
学生が納付した収入 (授業料・入学金・入学検定料)	8.7億円	1.1%
その他の収入 (諸収入)	18.5億円	2.4%
他機関等からの支援 (交付金・補助金)	68.6億円	9.0%
県からの支援 (運営費交付金等)	49.5億円	6.5%
国等からの支援 (補助金収入)	19.1億円	2.5%
職員が集めた収入 (受託研究・寄附金等収入)	15.9億円	2.1%
借入金 (長期借入金等収入)	88.1億円	11.5%
収入計	764.3億円	100.0%

項目	予算額	構成比
支出		
義務的に支払う必要のある経費 (人件費、償還金)	245.0億円	32.1%
職員への給与の支払い (職員給与)	224.8億円	29.5%
退職手当の支払い (退職手当)	4.2億円	0.5%
借金の返済 (長期借入金償還金)	16.0億円	2.1%
業務の運営に必要な経費 (業務費等)	420.0億円	55.0%
大学での教育研究に 必要な経費(教育研究経費)	35.8億円	4.7%
附属病院での診療に 必要な経費(診療経費)	355.2億円	46.5%
法人の運営全般に 必要な経費(一般管理費)	29.0億円	3.8%
施設整備や医療機器購入経費 (施設整備費)	99.3億円	13.0%
支出計	764.3億円	100.0%



令和8年度予算の主要事業

新…新規事業

飛…飛躍基金活用事業

教育

地域に貢献する医療人の県内定着、教育の質の向上、学生への支援の推進

- 資質を持った学生の確保・育成 38,641千円(R7 39,037千円)
大学案内の充実、地域基盤型医療教育プログラムの実施、奈良学の実施、愛校心醸成 等
- 教育の質の向上 149,656千円(R7 33,764千円)
良き医療人育成プログラムの実施、臨床マインドの育成、国家試験対策等の充実 等

飛国際水準の医療・研究を学ぶ機会の提供

50,597千円(R7 47,938千円)

リサーチ・クラークシップ国内外派遣、海外病院臨床実習、模擬国連活動助成 等

飛学生アメニティの向上

47,470千円(R7 8,213千円)

キャンパスミーティングを通じて学生からの要望を反映

- 畝傍山キャンパス設備充実 56,600千円(R7 13,900千円)
防犯等の観点から必要となる設備・備品の購入

研究

最善の医療に貢献する最先端の研究の実施、県民の健康増進への貢献

- 研究力の向上 76,546千円(R7 76,300千円)
研究力向上支援センターにおける研究の入口から出口までの一貫支援

飛大学共同研究施設の運営、設備・機能の充実

439,125千円(R7 251,951千円)

総研棟の運営、総研棟グランドデザインに基づき動物実験環境の改善、研究用設備・備品の整備 等

飛研究力向上のための支援・助成事業

100,693千円(R7 83,759千円)

横断的研究助成、若手研究者支援、科研費・AMED申請支援、APC助成の新設、英文校正助成・研究者海外留学助成の拡充 等

飛臨床研究センターにおける研究支援体制の充実

68,263千円(R7 30,269千円)

臨床研究センターの運営、特定臨床研究等に対する助成、治験事務のICT化 等

- 県民健康増進支援センターの運営 20,825千円(R7 20,825千円)
市町村や県の健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供

診療

県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践、県内基幹病院としての機能の充実、地域医療提供体制の強化

- 県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践 1,077,659千円(R7 933,274千円)
高度救命救急センターの運営、ドクターヘリの運航、24時間365日ERの実施 等
- 特定機能病院としての機能の充実 46,526千円(R7 60,252千円)
がんゲノム医療拠点病院機能の充実、脳卒中・心臓病等総合支援センターの運営 等
- 医療安全の推進 8,097千円(R7 8,422千円)
リスクマネージャー活動推進、医療スタッフマニュアル作成、患者安全確保物品の購入 等
- 医療DXの推進 4,559,410千円(R7 31,827千円)
次期総合医療情報システムの更新、生成AIを活用した業務自動化、戦略的医療情報連携推進講座の運営
- 病院経営の効率化・健全化、費用構造改革の徹底 349,816千円(R7 18,414千円)
病院経営分析による経営改善策の検討・実施、診療報酬改定対応 等

法人運営

業務運営の改善及び効率化、施設・設備の整備・活用

- 働きやすい職場づくり・働き方改革の推進 438,432千円(R7 345,976千円)
職員意識調査の実施、勤怠管理システムの充実、ハラスメント外部相談窓口の設置 等
- 法人運営を支える人材の確保と育成 19,888千円(R7 22,734千円)
柔軟な職員採用の実施、専門能力・階層別・業務能力向上研修の実施 等
- 新A棟整備関連事業 3,165,633千円(R7 1,396,987千円)
新A棟基本実施設計、駐車場整備、新A棟予定地上の建物除却 等

国際交流センターだより vol.23

開学 80 周年記念国際交流記念式典を開催しました (2026年3月20日)

開学 80 周年記念及び新キャンパスオープン記念事業実行委員会 委員長
(医学科長・免疫学講座 教授) 伊藤 利洋

奈良県立医科大学開学 80 周年記念事業の最終イベントとして、3月20日(祝)に「開学 80 周年記念国際交流記念式典」を開催しました。本学が国際学術交流協定を締結している 7 大学・病院のうち、海外 6 大学・病院から 18 名をお招きしました。式典では各施設代表者による施設紹介と本学との国際交流の将来展望についての発表が行われ、相互理解と連携を一層深める有意義な機会となりました。多くの学生の協力のもと盛況のうちに閉会し、本学の国際交流のさらなる発展を実感する一日となりました。



式典の様子 (畝傍山キャンパス・講堂)

参加大学・病院

チェンマイ大学	タイ	
ルール大学	ドイツ	
ミシガン大学	アメリカ	
プリンス・オブ・ソクラー大学	タイ	
サンライズジャパン病院	カンボジア	
シドニー大学	オーストラリア	

※協定締結順

記念式典

1. オープニングセレモニー
2. 本学特別講演
3. 協定校による講演 (第 1 部)
チェンマイ大学/ルール大学/
ミシガン大学
4. 協定校による講演 (第 2 部)
プリンス・オブ・ソクラー大学/
サンライズジャパン病院/シドニー大学
5. 記念品授与・記念撮影
6. 閉会挨拶



ヘリポートを見学しました。見学中に、偶然ドクターヘリが到着する様子を目にすることができました。



各施設代表による懇親会での鏡開き



式典の前には、茶道部の学生による呈茶も行われました。

ミシガン大学を訪問しました (2026年1月6日～12日)

医学科長 (免疫学講座 教授) 伊藤 利洋

本年1月、学術連携校である米国ミシガン大学を訪問しました。当時、本学学生4名が臨床実習(2名)およびリサーチクラークシップ(2名)に参加しており、その現地視察を行うとともに、新たに医学部長に就任された Thomas Wang 氏 (写真右) ならびに Global REACH (国際交流センター) (写真左) と会談しました。学生たちは臨床・研究の現場で意欲的に研鑽を積み、国際的環境の中で大きく成長している様子がうかがえました。本学が推進してきた海外臨床実習・リサーチクラークシップの成果を改めて実感するとともに、今後さらなる教育・研究交流の発展について合意し、両大学の連携強化につながる有意義な訪問となりました。



Global REACH の担当者



ミシガン大学 Wang 医学部長と

令和7年度(第3回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定(2月10日)

令和7年度 第3回若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の方に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増やし、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、30万円を上限として往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成するものです。

年に2回(令和8年度より変更になりました)募集しておりますので、皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
病理診断学	医員	池本 彩花

令和7年度 海外留学助成事業 助成者決定(2月6日)

昨年度より本学の発展の一助とするため、海外留学助成事業を創設しました。この制度は海外において学術の研究、調査等に従事する者に対して、未来への飛躍基金を活用した海外留学助成です。令和7年度は、下記の5名の方々に決定しました。毎年募集を予定しておりますので、皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
腎臓内科学	博士研究員	孤杉 公啓
脳神経外科学	助教	佐々木 亮太
消化器・総合外科学	医員	小原 有一朗
救急医学	助教	鶴田 啓亮
消化器・総合外科学	医員	土井 駿介

先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

重点研究進捗状況報告会を開催しました

本学では、重点研究2016推進計画に定める重点研究課題として、「地域に根差し地域と歩む研究」「日本を世界を牽引する研究」「良き医療人を育てる研究」を推進しています。

このたび、12月23日、1月30日、2月24日、3月24日に次の研究の進捗状況報告会を開催しました。

●地域に根差し地域と歩む研究

「術後機能障害の発生とその予防的介入に関する研究」

麻酔科学

教授

川口 昌彦

「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究」

疫学・予防医学

教授

佐伯 圭吾

「奈良県における循環器医療の質の向上と循環器病地包括ケア構築に資する実態調査」

循環器内科学

助教

上田 友哉

「MBT (Medicine-Based Town) 2025年度の主要活動報告」

MBT 研究所

コーディネーター

塩山 忠夫

●日本を世界を牽引する研究

「IVR 研究センターにおける研究進捗状況と新規研究課題」

放射線診断・IVR 学

教授

田中 利洋

「血栓止血の制御に関する研究」

血栓止血先端医学

准教授

辰巳 公平

●良き医療人を育てる研究

「よき医療人育成に関する研究、医療人のキャリアパスに関する研究」

教育開発センター

教育教授

若月 幸平



麻酔科学
川口昌彦 教授



疫学・予防医学
佐伯圭吾 教授



循環器内科学
上田友哉 助教



MBT 研究所
塩山忠夫
コーディネーター



放射線診断・IVR 学
田中利洋 教授



血栓止血先端医学
辰巳公平 准教授



教育開発センター
若月幸平 教育教授

学術の舞台 vol.4 第25回基礎医学教育協議会 合同講演会 (CASE XXV) を掲載しました

(本学ホームページ) >

研究力向上支援センター>学術の舞台

2025年12月17日に開催された第25回 基礎医学教育協議会合同講演会 (CASE XXV) での解剖学第二講座 教授 服部剛志先生のご発表と研究内容をホームページに公開しました。



令和7年度 第2回 AMED 外部資金 獲得セミナーを開催しました

2026年1月21日に今年度第2回目となる AMED 外部資金獲得セミナーを、生化学講座 教授の中村修平先生を講師に迎えて実施しました。研究者キャリアにおける AMED 外部資金獲得のメリットや、獲得に向けたノウハウを先生の研究成果を交えてご講演いただきました。



奈良医大アゴラ zero を開催しました

2026年3月9日に学内の研究者交流会「奈良医大アゴラ ZERO」を開催しました。2026年度からの本格開催をめざし、今回は、口頭発表2件、ポスター発表21件の発表をいただきました。多くの方にご参加いただき、本交流会を盛会のうちに終えることができました。新年度は本格開催を行ってまいりますので、多数の皆様の参加をお待ちしております。



奈良医大アゴラ zero 参加者

ラジオアイソトープ (RI) 実験施設がリニューアルしました！

本学 RI 実験施設の機能が大きく向上しました。研究ニーズの変化に対応し、使用可能核種および設備を刷新いたしました。

1. 使用可能核種のリニューアル

- 継続して使用可能な核種 ^3H 、 ^{14}C 、 ^{32}P 、 ^{33}P 、 ^{35}S 、 ^{125}I 、 ^{51}Cr
- 新たに使用可能となった核種 ^{18}F 、 ^{211}At

近年の研究トレンドおよび本学の研究状況を踏まえ、使用可能核種を見直し、上記核種が使用可能な施設として許可を取得しました。特に、小動物用 PET/CT 装置 (PET/CT) を導入しており、 ^{18}F 標識 PET 薬剤を用いた分子イメージング研究が可能です。また、近年注目されている α 線療法に用いられる ^{211}At (アスタチン) も使用可能となり、幅広い展開が期待されます。

2. 共有機器の配置変更

以下の共有機器を総合研究棟 4 階へ移設します。

- 共焦点レーザー顕微鏡 FV3000
- 化学発光検出装置 Fusion solo

これらの機器利用のために RI 従事者登録をされていた方は、今後、登録 (更新) は不要です。

3. RI 投与動物実験が可能になりました

- ^{18}F による PET/CT 撮像が可能 (CT 単独利用も可)
- RI 投与動物は凍結乾燥機による廃棄処理が可能

動物飼育設備および実験設備を整備し、 ^{18}F に限らず、 ^{211}At や ^3H などを投与したマウス・ラットを用いた実験が可能となりました。アイソレーターラックを導入しており、交差感染を防止しながらクリーンな環境で飼育できます。

施設利用・研究相談

当施設での RI 実験は教員 (菓子野) がサポートいたします。特に PET/CT に興味がある方は、まずご相談ください。RI 管理室 (内線 2650) または菓子野 (内線 2349、ri-kanri@naramed-u.ac.jp) までお気軽にご相談ください。

【本施設のリニューアルにより、本学における分子イメージング研究・ α 線治療研究のさらなる発展が期待されます。ぜひ積極的にご活用ください。】

動物実験施設の取り組みの紹介

本学動物実験施設では、適正な動物実験実施のための国際原則 3Rs (Replacement, Reduction, Refinement) に基づいた研究活動を促進していくために、利用者に対して色々な取り組みを行なっております。

- (1) 生殖工学技術受託事業
- (2) 動物実験基本手技トレーニング講習
- (3) 動物実験コンサルテーション

(1)、(2)、(3) について、詳しくは動物実験施設へお問い合わせください。

お問い合わせ：

医学研究支援センター動物実験施設
内線 2566、2611

E-mail: larc@naramed-u.ac.jp



The image shows two informational posters. The left poster is titled "動物実験コンサルテーションを活用してみませんか?" (Would you like to use animal experiment consultation?). It lists reasons for consultation, such as "I don't know how to handle animals" and "I want to improve my skills." It also lists the services provided, including "Animal experiment consultation" and "Animal experiment training." The right poster is titled "生殖工学技術受託事業を活用してみませんか?" (Would you like to use the reproductive engineering technology outsourcing business?). It lists reasons for outsourcing, such as "I want to reduce the number of animals used" and "I want to improve the quality of the results." It also lists the services provided, including "Reproductive engineering technology outsourcing" and "Animal experiment training." Both posters include contact information for the facility.

総合研究棟以外でも P2 実験室の設置申請が出来るようになりました

現在の医学・生命科学研究において、組換え DNA 技術は欠かすことのできない重要な技術です。一方で、人や生態系への悪影響を防止することも同様に重要です。

これまで本学では、P2 実験の実施場所を総合研究棟に限定していました。しかし、全国的な状況や最新の科学的知見を踏まえた検討の結果、総合研究棟以外の施設においても P2 実験室の設置申請が可能となりました。P2 実験室を設置する場合には、安全キャビネット (右図) の設置と適切な運用管理、さらに同一建物・同一講座内へのオートクレーブの設置などが必要となります (詳細はお問い合わせください)。これらの体制を整えることで、従事者だけでなく、周囲の人々の安全や生物多様性を確保して、研究を進めることができます。

今後も皆さまと力を合わせ、安全で円滑な組換え DNA 実験環境を築いていきたいと考えております。ご意見やご要望がございましたら、ぜひお聞かせください (内線 2568)。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



あらためまして：図書館の利用案内

図書館が畝傍山キャンパスに移転してから一年が経ち、二度目の春を迎えました。この春に医大に来られた方も、前からいらっしゃる方もぜひお越しいただきたく、あらためて図書館利用についてご案内します。

■ 場所

図書館がある講堂図書棟は、畝傍山キャンパスの講義棟と実習研究棟の間にあり、畝傍山が目前に見えます。



■ 入館

入館は職員証または学生証で行います。グレーのパネルにカードをタッチしてください。



■ 開館時間

平日8:30～17:00は有人開館、平日8:00～8:30と17:00～24:00、土日祝日8:00～24:00は無入館です。年末年始休館(12月31日から1月3日)と入試による臨時休館以外は基本的に開館しています。

■ 資料の貸出・返却

貸出は館内の自動貸出機をご利用いただけます。返却は自動貸出機をご利用いただくか、返却ポストを畝傍山キャンパス(講堂図書棟入口)と四条キャンパス(旧図書館入口)に設置しています。

■ 貸出期間と冊数

貸出期間は2週間、貸出冊数は5冊までです。DVDなど視聴覚資料は1週間です。

■ 館内資料コピー

図書館資料のコピー機を1階に設置しています。複写申込書にご記入いただき、著作権の範囲内でご利用ください。私物のコピーはできません。

■ 資料の場所

単行本は1階のみ、雑誌は1階と2階にあります。単行本は医学・看護学・その他を分野ごとに並べているほか、統計や国試関係といったコーナーを別置しています。雑誌はタイトルのアルファベット順に並んでおり、和雑誌は1階にAからK、2階にLからZ

があります。看護系の雑誌と洋雑誌は2階です。洋雑誌のJからZは集密書架にあるため、係員が資料を取り出しお渡しします。

■ 館内環境

各席にコンセントとデスクライトを備えています。館内はキャンパスネット(学内無線LAN)をご利用いただけます。

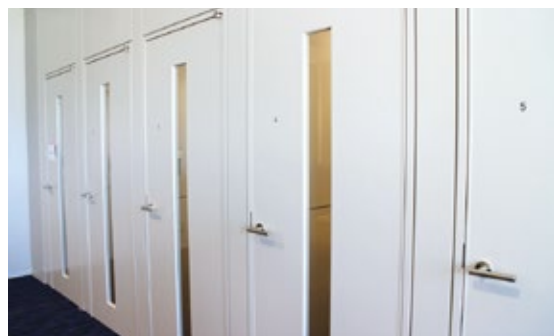
■ グループ学習室

予約制で利用できるスペースです。8室あり、一部屋あたり10名までご利用いただけます。部屋によってテーブルの形やモニター有無が異なります。利用時間は平日の9時から17時までです。SharePointの「附属図書館予約状況確認サイト」よりご予約ください。



■ 学習室個室

2階北側にある個室ブースで、夜間や土日でもご利用いただけます。こちらも予約制で利用でき、同じ部屋の連続した予約は最長7日間まで可能です。SharePointの「附属図書館予約状況確認サイト」よりご予約ください。



■ 図書リクエスト制度

図書館に購入してほしい本があればリクエストすることができます。1階ブラウジングコーナーのオピニオンボックスに入れていただくか、メールで件名を「オピニオン」として図書館代表メール宛にお送りください。オピニオンボックスでは、図書館へのご意見・ご要望も受け付けています。

看護部の紹介

医学教育関係業務功労者 表彰

文部科学省より、医学・歯学に関する教育・研究、または患者診療等において、顕著な功労のあった方が表彰されます。

C棟4階 看護師 藤崎 由美

この度 医学教育等関係業務功労者として表彰を賜り、誠にありがとうございます。皆様に支えられ助けていただき、このような荣誉ある表彰を受けることができました。心より感謝申し上げます。入職以来、多くの方々との出会いに恵まれ、様々なご指導をいただき、数多くの経験をさせていただきました。なかでも腎不全看護は、私にとって大きな成長のきっかけとなり、非常に印象深い学びとなっています。患者さん・ご家族と共に、その方が病を持ちながらもより良い生活ができるように一緒に考え支えていくことは、看護師としてだけでなく、人としても大きく成長させていただいたと感じております。これまでの経験を糧に、これからも感謝の気持ちを忘れず頑張りたいと思います。ありがとうございました。



認定看護管理者紹介 (2025年度第29回認定審査合格)

看護部 看護副部長 平島 規子

2025年度第29回認定審査において、認定看護管理者として資格を取得することができました。本資格は、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族、地域住民及び社会に対して、質の高い組織的看護サービスを提供するために、必要な知識・技術・態度を習得する教育課程を経て、優れた看護管理者を育成することを目的に日本看護協会が認定しています。2025年に公表された“新たな看護の将来ビジョン”では、医療・介護の複合ニーズが加速し、看取りの場はさらに地域に拡大していくことが予測されています。看護職はこれまで以上に、自律した専門職として、社会の変化に応じながら地域との連携を強化した質の高い看護実践が求められています。この将来ビジョンでは、看護職自身がやりがいを持ち、心身ともに充実しているウェルビーイングな状態であることが大切である、としています。私自身、看護管理者のウェルビーイングを意識しながら、これから関わる全ての看護職とともに奈良県の地域医療の発展に貢献したいと考えています。



看護部 看護副部長 浅川 寿

この度、日本看護協会が認定する「認定看護管理者」の試験に合格いたしました。神戸看護研修センターでの約2か月間の研修では、組織運営、人的資源管理、質改善、医療安全など、多角的な視点から看護を捉え直す貴重な機会となりました。研修受講にあたりご支援いただいた皆様に深く感謝申し上げます。現在、医療を取り巻く環境は大きく変化しており、地域包括ケアの推進、医療安全の高度化、DXの活用など、看護管理者に求められる役割は一層重要になっています。今後は、研修で得た知見を日々のマネジメントに活かし、「お互い様精神」を基盤に多職種と協働しながら、次世代へ継承できる看護の実践をめざしたいと考えております。

認定看護師紹介 (2025年度合格者)

認定看護分野 脳卒中リハビリテーション看護

B棟5階 看護師 谷川原 将平

脳卒中患者は突然起こった病気により、運動麻痺や高次脳機能障害等の様々な後遺症によりその後の生活が一変します。そんな脳卒中患者とその家族に多く関わるなかで、患者・家族がその人たちらしい生活を取り戻していけるように支援していきたいと思い、当資格の取得を目指しました。今後は教育課程での学びを活かし、脳卒中という突然の危機状態にある患者に対し、重篤化の回避・生活の再構築の支援をチーム全体で実践できるように活動していきたいと考えています。また患者だけではなく、家族にも寄り添い、多職種と連携を図りながら、患者・家族が再び社会で生活を歩みだせるように支援していきたいと考えます。



認定看護分野 慢性心不全看護

C棟7階 看護師 津矢田 浩代

この度、慢性心不全看護、認定看護師の資格を取得いたしました。研修期間中、業務調整や温かい励ましをいただいた皆様に心より感謝申し上げます。ICU・CCUでの勤務を通じ、再入院を繰り返す患者さんを目の当たりにし、慢性疾患とともに生きる患者さんへの継続的支援の重要性を実感したことが本分野を志したきっかけです。教育課程では、病態生理に基づくアセスメントや症状マネジメントに加え、生活調整や意思決定支援など、長期的視点に立った心不全看護について学びを深めました。今後は当院における心不全看護の質向上に寄与するとともに、多職種と協働しながら患者さんの生活を支える看護の実践と普及に努めてまいります。

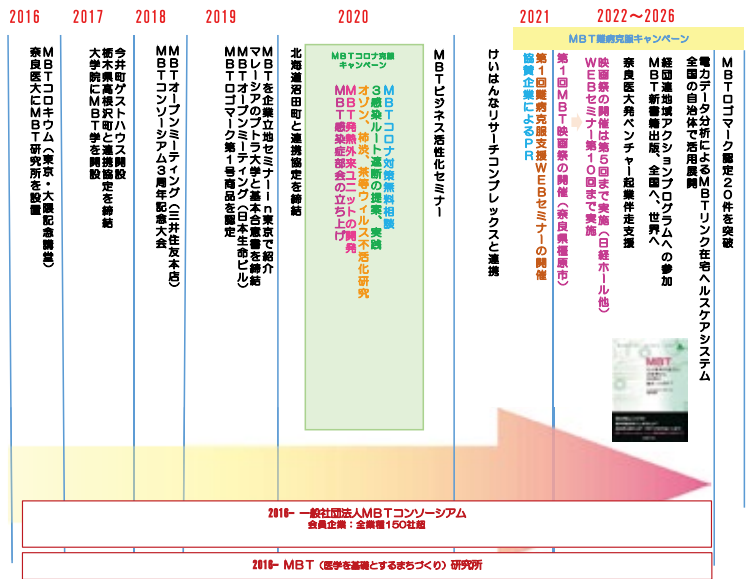


MBT研究所だより (第40報)

MBT 研究所は 2016 年 6 月 8 日に設置され、10 周年となります。そこで MBT 研究所のこの 10 年の歩みを振り返りたいと思います。

1. 2016-2019年

2016-2019 年は、MBT 研究所の設置から新型コロナウイルス感染症流行以前となります。2016 年 4 月、MBT 研究所に先立って一般社団法人 MBT コンソーシアムが設立されました。会員企業数は 2016 年末時点で約 80 社でしたが、現在は 150 社を超えております。同年 11 月には早稲田大学大隈講堂で MBT コロキウムを開催し、約 600 名・210 企業の参加者が参集しました。2019 年には、北原紘教授のシーズを基にしたマツレスが MBT ロゴマーク第 1 号に認定されました。



MBT 研究所の歩み

2. 2020-2021年

2020-2021 年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振った時期です。MBT 研究所は MBT コロナ克服キャンペーンを実施しました。このキャンペーンでは、以下の取り組みが実施されました。

- ① 正しい感染対策の普及: 3つの感染ルート (接触・飛沫・エアロゾル) の遮断を重視したガイドラインを策定しました。
- ② 企業・団体への相談支援: コロナ対策相談や Web 座談会などを通じて、実社会での感染対策を支援しました。
- ③ 活動記録冊子の発行: 学校、ホテル、商店街、イベント等での具体的な感染対策事例をまとめた活動記録冊子を作成し、公開しました。



MBT コロキウムの模様



東大寺の参観衆が修行する室内現場で助言

3. 2022-2026年

2022 年以降は新型コロナウイルス感染症の流行がやや下火になり、日常生活が戻ってきた時期です。この時期の特徴的な活動として、2021 年末より MBT 難病克服キャンペーンを行っております。このキャンペーンは協賛企業の募集、WEB セミナーの実施、映画祭の開催の 3 つの柱から成り立っております。映画祭はこれまで 5 回開催しました。この間ベンチャー起業の伴走支援を積極的に行っており、奈良医大発ベンチャーはこれまで 8 社誕生しました。また、経団連の地域協創アクションプログラムの連携先にも選ばれております。



第 5 回映画祭 (本年 1 月) の記念撮影

4. まとめ

この 10 年間の活動を通じ、様々な成果が出ております。

- ① MBT コンソーシアムの会員企業が 150 社を超えました。
- ② 実施済み / 実施中の新産業創出 & 新製品開発活動は 26 件に上ります。
- ③ MBT ロゴマークは 20 件に使用許諾がなされております。
- ④ 22 都道府県、49 ヶ所で実証研究、共同研究等が行われております。
- ⑤ メディアに取り上げられた回数は 627 回に上りました。

2014 年 1 月 ~ 2026 年 1 月 31 日 現在

種類	報道数・対外紹介数 (累計)
TV	55
書籍	15
新聞	243
WEB	241
企業誌	20
広告	32
報道資料	20
その他	1
合計	627

MBT 関連報道数・対外紹介数

令和8年度の診療報酬改定にみる医療DXの進展と大学病院の役割

戦略的医療情報連携推進講座 教授/医療情報部 部長 玉本 哲郎

令和8年度の診療報酬改定¹⁾において、医療分野におけるデジタル・トランスフォーメーション(DX)は、従来の「導入の有無」を評価する段階から、「実際の診療や地域連携にどのように活用されているか」を問われる新たな段階へと移行しました。これは単なるIT化にとどまらず、医療の質・安全性・効率性を向上させる基盤としてDXを位置づける政策転換であり、大学病院を含む医療機関にとって極めて重要な意味を持つものです。今回の改定では、従来の医療DX推進体制整備加算や医療情報取得加算が見直され、新たに電子的診療情報連携体制整備加算が創設されました。この加算は、マイナ保険証の活用に加え、電子処方箋の運用、電子カルテ情報共有サービスとの接続、さらにはサイバーセキュリティ対策の実装など、複数の要素を統合的に評価する仕組みです。すなわち、単一施設内で完結する体制ではなく、医療機関(医科・歯科)・薬局が連携し、地域全体としてデジタル基盤を活用しているかが評価される構造となっています。

特に電子処方箋は、本改定において中心的な役割を担っています。オンライン診療においては、重複投薬の防止や薬剤情報の確認を電子的に行うことが求められ、電子処方箋基盤の活用が診療の安全性を担保する仕組みとして位置づけられました。これにより、医療機関と薬局の情報連携は一層密接となり、処方から調剤、さらには在宅医療に至るまで、一貫した情報の流れを前提とした医療提供体制の構築が求められています。また、救急医療の現場においてもDXの重要性が明確に示されました。新設された救急時医療情報取得加算は、意識障害などにより患者本人から十分な情報が得られない場合に、電子的に既往歴や薬剤情報を取得することを評価するものです。これは、デジタル基盤が単なる業務効率化にとどまらず、医療安全や救命に直結する役割を担うことを明確に示したものとと言えます。さらに、在宅医療および訪問看護の領域では、オンライン診療の評価が拡充され、看護師等が患者と同席し遠隔診療を支援する仕組みが制度化されました。これは、医師単独による遠隔診療から、多職種が連携する「チーム型DX」への進展を意味しています。高齢化が進展する中で、地域包括ケアシステムの実効性を高める上で、こうした医療と介護の接続領域におけるデジタル連携の重要性は今後さらに増すものと考えられます。加えて、薬局においても電子的調剤情報連携体制整備加算が新設され、医療機関とのデータ連携が制度的に強化されました。これにより、医療提供は単なる診療行為にとどまらず、処方・調剤・フォローアップを含む一連のプロセスとして捉えられ、その全体を支えるデジタル基盤の整備が求められるようになっていきます。

一方で、今回の改定では「現場負担の軽減」という観点も重視されています。各種様式の簡素化や共通化、オンラインによる届出の推進、署名・押印の廃止など、業務効率化に向けた見直しが進められています。これは、DXの本質が単なるシステム導入ではなく、業務プロセスの再設計を通じて医療従事者の負担を軽減し、患者ケアにより多くの時間を充てることにあるという考え方を反映したものです。

以上のように、令和8年度診療報酬改定における医療・介護DXは、①利活用を重視した評価への転換、②電子処方箋および電子カルテ共有を中核とした基盤整備、③救急・在宅・薬局を含む横断的連携の推進、④多職種によるチーム型医療の実現、⑤業務簡素化を含む運用改革という観点から整理できます。

大学病院の役割としては、これらを単なる制度対応として捉えるのではなく、地域医療を牽引する立場から戦略的に実装していくことが求められます。すなわち、自院のDXを高度化するだけでなく、地域の医療機関や薬局、さらには介護分野との連携を含めた「地域全体の医療DX」を設計・推進する中核的役割が期待されています。今回の改定はその方向性を明確に示したもので、我々はこの役割を果たせるように取り組んでいきたいと考えています。

参考文献

- 1) 令和8年度診療報酬改定について【全体概要版】厚生労働省保険局医療課 <https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/001685766.pdf>

令和8年度医科診療報酬改定の主なポイント

<p>1. 賃上げや物価への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 賃上げに向けた評価 <ul style="list-style-type: none"> 令和8・9年度での各3.2% (看護補助等は5.7%) の賃上げに向けたベースアップ評価の見直し (点数の見直し、夜勤手当への充当を可能にする) 物価高への対応 <ul style="list-style-type: none"> 令和8・9年度の物価上昇に対応する「物価対応料」の新設、入院時の食費・光熱水費基準額の引上げ 等 	<p>5. 人口の少ない地域・医師偏在対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口少数地域で医療提供機能を確保するための評価の新設 <ul style="list-style-type: none"> 医療提供機能連携確保加算の新設 (人口少数地域での外来・在宅医療の確保の支援や、緊急入院の受入体制がある病院を評価) 診療科目別評価の推進 <ul style="list-style-type: none"> 地域医療体制確保加算の新設 (若手医師が減少し、体制確保が必要な診療科目の医師を対象として、勤務環境や処遇を改善する取組を評価) 外科医療確保特別加算の新設 (長時間高難度手術の実地体制を整備し、外科医の勤務環境や処遇を改善しつつ手術を行う場合を評価)
<p>2. 急性期・高度急性期入院医療の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 急性期・高度急性期の医療提供機能に応じた評価の見直し <ul style="list-style-type: none"> 急性期病院一般入院基本料の新設、特定機能病院入院基本料の見直し 急性期総合診療科の新設 (既存評価を改組し、総合性と手術等の集積性を評価) 特定集中治療管理料等の見直し (救急搬送や全身麻酔を実績要件化) 多職種が連携して提供する体制の評価 <ul style="list-style-type: none"> 特定集中治療管理料等の見直し (救急搬送や全身麻酔を実績要件化) 	<p>6. 外来医療の機能分化・強化等</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来の機能分化の推進 <ul style="list-style-type: none"> 特定機能病院等の外来診療料等の減算に係る連結割合の基準の見直し 特定機能病院等からの紹介患者の初診に関する加算の新設 外来に係る評価の見直し <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病管理料の包括範囲や地域包括診療加算等の対象患者の見直し 時給別加算の引上げ、名称変更
<p>3. 包括期・慢性期入院医療の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 「治し、変える医療」の実現に向けた各評価の見直し <ul style="list-style-type: none"> 地域包括診療科の新設 (高齢者に配慮した要件見直しなど) 回復期リハビリテーション病棟の見直し (実績指数要件の対象拡大など) 療養病棟入院基本料の医療区分別見直し 質の高い包括期入院医療の評価 <ul style="list-style-type: none"> 生活に配慮した支援を強化するための入院支援加算1の引上げ 身体的拘束の最小化を組織的に行う際の評価の新設 	<p>7. 質の高い在宅医療・訪問看護の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療に関する評価の見直し <ul style="list-style-type: none"> 地域在宅医療における情報の役割を担う医療機関の更なる評価 訪問看護に関する評価の見直し <ul style="list-style-type: none"> 同一建物に居住する利用者の人数等に応じたより細かい評価への見直し 地域と連携した精神科訪問看護体制の新設
<p>4. 業務効率化・負担軽減等に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT等の活用による業務効率化・負担軽減 <ul style="list-style-type: none"> 見守りや記録等でICTを組織的に活用した際の看護配置基準の柔軟化 成果A1等を組織的に活用した際の医師事務作業補助体制加算の柔軟化 やむを得ない事情で管理職員が不足する場合の柔軟な柔軟化 	<p>8. 重点的な対応が求められる各分野での対応 (救急、小児・周産期、精神医療、DX、オンライン診療など)</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急医療 <ul style="list-style-type: none"> 救急外来医療の24時間提供体制の評価の拡充 (救急外来管理料の新設) 救急患者連携搬送料について、民間救急等を活用した搬送送迎や下り搬送の収入増進評価 小児・周産期医療 <ul style="list-style-type: none"> 妊娠補完として安心できる産後環境の確保と妊娠・産後のケアを一貫して行う体制の評価 (産科管理加算) 小児科以外で成人移行医療を実施の際に難病外来指導管理料を算定可

図1. 令和8年度医科診療報酬改定の主なポイント (文献1より引用)

令和8年度診療報酬改定



医療DX・オンライン診療に係る全体像



- 医療DX関連施策の進捗等を踏まえ、医療DX推進体制整備加算・医療情報取得加算を廃止し、マイナ保険証の利用、電子処方箋、電子カルテ共有サービス、サイバーセキュリティ対策等に係る新たな評価を新設する。
- オンライン診療について、各種形態のオンライン診療を適正に推進する観点から、情報通信機器を用いた診療の施設基準の見直し、D to P with Nによるオンラインの評価の明確化、遠隔連携診療料の評価の拡大、情報通信機器を用いた医学管理等の評価の新設・見直しを行う。

医療DXに係る評価	オンライン診療に係る評価
<ul style="list-style-type: none"> 医療DXやICT連携を活用する医療機関・薬局の体制の評価 (新) 電子的診療情報連携体制整備加算 <ul style="list-style-type: none"> 初診時 1/2/3 15点/9点/4点 再診時 2点 入院時 1/2 160点/80点 (新) 電子的歯科診療情報連携体制整備加算 <ul style="list-style-type: none"> 初診時 1/2 9点/4点 再診時 2点 (新) 電子的調剤情報連携体制整備加算 8点 電子処方箋システムによる重複投薬等チェックや救急時医療情報閲覧機能の利活用の推進 (新) 救急時医療情報取得加算 50点 (新) 遠隔電子処方箋活用加算 10点 	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信機器を用いた診療の施設基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> チェックリストのウェブサイトへの掲示 医療広告安全ガイドラインの遵守 D to P with Nのオンライン診療の評価の明確化 (新) 訪問看護遠隔診療補助料 (1日につき) <ul style="list-style-type: none"> 医師と同一の医療機関の看護師等 265点 訪問看護ステーションの看護師等 2,650点 (新) 看護師等遠隔診療指導実務料・看護師等遠隔診療指導実務料 <ul style="list-style-type: none"> 1種類/2種類以上 100点/150点 (新) 看護師等遠隔診療注射実務料 100点 遠隔連携診療料 <ul style="list-style-type: none"> 外来診療/訪問診療/入院診療 900点/900点/900点 情報通信機器を用いた医学管理等の評価の新設・明確化 (新設) <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養指導料、プログラム医療機器等指導管理料 在宅振戦等刺激療法治療指導管理料 (明確化) 外来栄養指導料

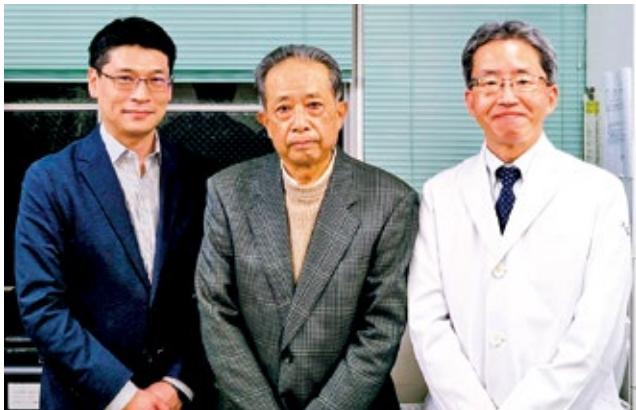
図2. 医療DX・オンライン診療にかかる全体像 (文献1より引用)

11.27

研究費のご寄附をいただきました

脳神経内科学 教授 杉江 和馬

この度、額瀨和美様より、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) などの神経難病の病態解明及び治療薬開発に向けた研究開発を目的としたご寄附をいただきました。近年、神経難病の病態理解は徐々に進んできておりますが、まだまだ未解決の課題が残されております。治療法を待つ患者さんに、1日でも早く治療薬を届けられるよう、研究開発を進めて参ります。



1.28

奈良女子大学との医工連携見学実習を開催しました

戦略的医療情報連携推進講座 教授 玉本 哲郎
講師 山内 哲司

奈良女子大学生生活環境学部で情報学を専攻する学生約 20 名を対象に、本学および附属病院で実習を実施しました。情報工学を学ぶ学生に医療現場や医学教育の実際を体験してもらい、医療分野への関心喚起や情報学的視点からの課題発見、本学が重視している大学間の医工連携の深化を目的とした企画です。当日は教育開発センター、スキルスラボ、情報推進課、中央放射線部などの協力のもと、医療現場の情報・AI 活用や最新の教育システムを現場で学びました。

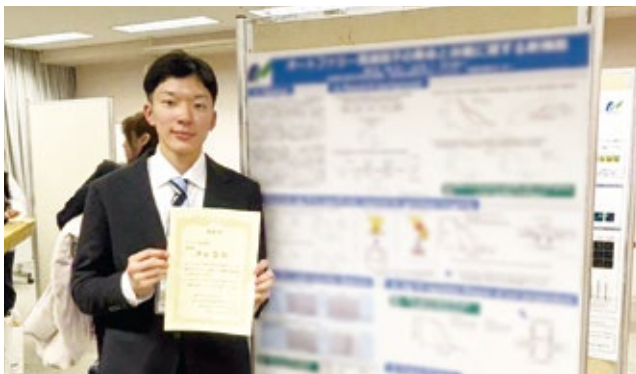


12.20

西日本医学生学術フォーラム 2025 で発表しました

医学科3年生 原田 昌 (生化学)

この度、12月20日に三重大学主催で開催された第10回西日本医学生学術フォーラムにおいてポスター発表を行い、審査員奨励賞を受賞いたしました。演題は「オートファジー関連因子の寿命と休眠に関する新機能」です。本研究はオートファジー因子が従来の経路とは異なる非定型的機能を有するという私達の予備知見および仮説に基づき、寿命や休眠を制御する新たな分子メカニズムを解明することを目的としています。本フォーラムで分野外の医学生や教員の方から普段とは異なる視点から質問や指摘を受け大変刺激を受けました。本発表にあたりご指導を賜りました、中村先生、堀川先生をはじめとする生化学講座の先生、関係者の方々に深く感謝いたします。



医学科5年生 玉本 咲楽 (公衆衛生学)

12月20日に三重大学主催で開催された第10回西日本医学生学術フォーラムにおいて口頭発表を行いました。発表テーマは「奈良県のCOPDの有病率に関する記述研究」です。慢性閉塞性肺疾患 (COPD) を対象にレセプトデータを用い、先行研究における複数の疾病定義を検証し、その違いが有病率に及ぼす影響を明らかにすることで、データベース研究における疾病定義の重要性を示しました。他分野の研究を行う先生方や学生の発表、特別企画での交流は大きな刺激となり、今後の研究の意欲を更に高めることができました。本発表にあたり、ご指導いただいた今村先生、西岡先生をはじめ、講座関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



1.31

MBT 難病克服支援 WEB セミナーを開催しました

本学および MBT コンソーシアムでは、1月31日に第10回 MBT 難病克服支援 WEB セミナーを開催いたしました。本セミナーは令和3年9月の開始以来、難病研究者や患者、支援関係者、一般市民の皆様幅広くご参加いただきながら継続して開催しており、このたび節目となる第10回を迎えることができました。

今回は、山形大学の太田康之教授より、地域における難病診療連携の取組についてご講演いただき、拠点病院や行政、医療・福祉関係者が連携し、患者が住み慣れた地域で安心して療養できる体制づくりの重要性が示されました。また、遠发型ミオパチー患者会代表の織田友理子氏からは、ご自身の経験を踏まえ、「福祉のバリアフリーから人権のバリアフリーへ」という視点で、誰もが尊厳を持って社会参加できる環境づくりの必要性についてご紹介いただきました。今後も本セミナーを通じて、難病への理解促進と支援の輪の拡大に取り組んでまいります。



(左上) 細井裕司理事長 (右上) 脳神経内科学杉江和馬教授・司会進行
(左下) 織田友理子氏 (右下) 太田康之教授

2.3
2.4

CCOI Asia-Pacific Innovation Forum 2026に参加しました

医学科3年生 植村 綾音

2月3日～4日に香港で開催された「CCOI Asia-Pacific Innovation Forum 2026」に Forum Ambassador 兼 司会 (MC) として参加いたしました。本フォーラムは、眼科領域の新規医療技術や AI・デジタルヘルスの社会実装をテーマに、臨床医、研究者、企業、規制当局が参加する国際会議です。国際的な研究者・専門家との議論を通じ、臨床課題に基づく研究開発や実装戦略に関する知見を共有する貴重な機会となりました。今回の経験を今後の学びに生かし、本学における研究推進および国際連携の発展に貢献してまいります。



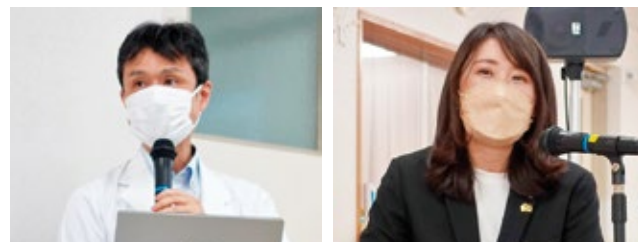
2.9

奈良臨床漢方医学薬学セミナーを開催しました

大和漢方医学薬学センターでは、医療従事者を対象に奈良臨床漢方医学セミナーを開催しております。

今回は、本学感染症内科学 笠原敬教授の司会で、株式会社ツムラ 甲藤様に「初学者にもやさしい漢方講義～漢方の原点は感染症治療～」のテーマでご講演をいただきました。

初心者や苦手としている方にもわかるように初歩の内容を中心に葛根湯や麻黄湯の活用法のお話をさせていただきました。さまざまな教室から参加いただき、講演後には質疑応答が活発に行われました。参加者の理解がさらに深まる実りのある時間となりました。今後も漢方に関するセミナーを開催する場合は、一斉メール等でお知らせしますので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。



座長を務める感染症内科学
笠原敬教授

講演される株式会社ツムラ
甲藤氏

2.12

令和7年度地域基盤型医療教育協力施設講演会を開催しました

2月12日、「令和7年度 奈良県立医科大学 地域基盤型医療教育協力施設講演会」を開催し、多くの教職員および学外実習施設関係者の皆様にご参加いただきました。講演会では、教育開発センター副センター長・教育教授の若月幸平が「臨床実習の現状について」のテーマで講演し、続いて明日香村診療所管理者の武田以知郎先生より「『ここで学びたい』を創る！学生にも診療所にも喜ばれる地域医療実習のポイント」についてご講演いただきました。参加者はメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。意見交換会では、学生受け入れに関する取り組みや課題について次々と質問が寄せられ、時間いっぱいまで活発な議論が続く大変盛況な場となりました。今年度、教育開発センターでは FD (Faculty Development) 活動として年間9回の研修会・講演会を実施しました。今後も本学の医学教育の充実に向けて、引き続き FD 活動を推進してまいります。



2.2
2.6

医学看護学合同教育科目「奈良学」を開講しました

奈良学は、奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、県の医療状況について学び、奈良の医療に対する意識を涵養することを目的に開講しています。また、本科目は、医師・看護師の多職種連携の基盤形成を図ることも目的に医学科1年生と看護学科1年生の合同講義として開講しています。

令和7年度は、2月2日(月)～2月6日(金)の5日間、集中講義として実施しました。

■ 奈良学の開始にあたって

細井学長から、本学の過去・現在・未来と題して、講義をしていただきました。奈良学は、本学の学生が自己の将来を有意義なものにするために必要な材料を提供すること、本学の姿を知って、本学の学生である誇りを持つようになることを目的として開講していると始めに話されました。ご自身の業績に触れられながら、本学の独創的な取組のひとつであるMBTについて講義し、新キャンパスを核とした新たな街づくりの構想を説明されました。最後に、学長が学生へ挑戦する気持ちを常に持ち続けるよう激励のことばを贈られました。

■ 奈良の文化・歴史・自然学習

奈良の文化・歴史・自然について、座学で学んだ後、医学科と看護学科を混ぜた約8名ずつのグループに分かれ学生自身でフィールドワークの計画を立て、県内7か所で自然散策を行いました。

《今井町の歴史(座学)》

今井町並み保存会の中西会長をお招きし、本学の近隣に位置する今井町の歴史について講義をしていただきました。

講義では、今井町の起こりから重要伝統的建造物群保存地区の指定を受け、現在に至るまでの歴史を説明されました。最近では映画のロケ地としても有名で、「聖地巡礼」として今井町パンフレットでも注目を集めています。学生からは、今井町の歴史について深く考えたことがなかったが、講義を受けて今井町がより身近に感じられたという意見が多数ありました。



今井町パンフレット

《深イイ奈良の歴史&文化(座学)》

奈良まほろばソムリエの会の鉄田専務理事をお招きし、奈良県の歴史と文化について講義をしていただきました。

講義では、奈良県の地域性から奈良盆地北部、奈良盆地南部、大和高原と吉野路の4つのエリアに分けることができることの説明があり、各エリアの特色や観光地等を紹介していただきました。「奈良にうまいもんがあるのか」という論争もご紹介いただき、特にグルメの話は興味深かったようです。県外出身者も多いことから、奈良について幅広く、楽しく知ることができたようでした。

《奈良県の地理・気候・自然災害(座学)》

気象庁 奈良地方気象台の瀧澤様をお招きし、奈良県の地理や気候、自然災害について講義をしていただきました。

奈良県の地理に詳しくない学生にもわかりやすく、市町村の位置関係や奈良県の自然災害、災害が起きた時の対処法について、クイズを交えて講義されました。学生の感想には、奈良県の大規模な病院の一部が、災害の危険性がある地域に存在することを初めて知ったとの声があり、当該病院が被害を受けた際の対応について考えるきっかけになったようです。

《フィールドワーク》

フィールドワークは、奈良市東部、奈良市西部、大和郡山市、斑鳩町、桜井市、明日香村及び吉野町の7コースに分かれ、グループごとに作成した計画書に沿って行いました。学生の感想では、直接、奈良の寺を訪れることで、奈良の魅力を再発見した、学科を問わず、今まで話をしたことがなかった学生と仲良くなった等が多数ありました。

また、フィールドワーク終了後、見学地ごとに写真、解説、見どころ及び豆知識などを、グループ内で報告書にまとめ、理解が深まったようです。



石舞台古墳



法華寺

■ 奈良の医療についての学習

3日間を通して、奈良の医療について学びました。

初日は、グループごとに見学先の病院について事前学習した後、県内13施設で病院見学を行いました。2日目は、奈良県の医療について座学で学んだ後、奈良県の医療における課題及び解決策をグループディスカッションし、発表資料を作成しました。

最終日は、前日に作成した資料を用いて、奈良県の医療に関する発表会を6つの会場に分かれて行い、各会場から選ばれた最も優秀なグループ1組がシンポジウムで発表しました。

《病院見学実習》

奈良県内の13病院に分かれ、病院見学を実施しました。地域医療の現状等を踏まえて、病院の概要、立場などをご紹介いただきました。また、病院ごとに、9テーマ(地域医療、在宅医療、へき地医療など)が割り振られ、グループワーク及び発表会に向けて、見学先の医師や看護師、メディカルスタッフのお話を熱心に聞き、活発な質疑応答が行われました。

1年生の授業内では普段見ることのできない、外来、検査室手術室及びドクターヘリなどを見学させていただき、初めて見る病院の設備、機器に直接触れる体験実習を行い、興奮している学生も多数いました。学生は、実際に見学させていただくことで、将来、医療人となることを実感し、医療について学ぶモチベーションが上がったようでした。



見学先：南奈良総合医療センター



見学先：宇陀市立病院

《奈良県の医療（座学）》

奈良県医療政策局の通山局長から奈良県の医療について講義をしていただきました。

国の動向を踏まえつつ、県内の地域性を考慮した医療施策を展開していることを、現状や現在の取組状況、今後の方針を交えて説明されました。学生は、これまで学習した講義内容やフィールドワーク、病院見学がこの講義と結びつき、奈良県の医療について学びを深めることができたようでした。

《奈良県の医療と病院に関する発表会の資料作成》

病院見学実習ごとに設定されたテーマに沿って、奈良県の医療における課題の明確化、優先順位の決定と解決策の検討を行いました。



KJ法による課題の明確化

課題の明確化はKJ法を、設定した課題の解決順の決定は2次元展開法を用いました。縦軸を重要性、横軸を緊急性としたグラフに、KJ法で明らになった課題点を配置し、両方の指標が高いものから最優先課題を決定しました。

決定した課題について検討し、病院見学実習で学んだことや医師・看護師が地域医療に求められることや実施すべきこと等をまとめ、発表資料を作成しました。

より良い発表をするために時間いっぱいまで、ブラッシュアップを重ねているグループもあり、熱心に取り組む様子が印象的でした。

《奈良県の医療と病院に関する発表会》

22班を6会場に分け、発表会を行いました。

会場ごとに教養教育部門と看護学科の教員各1名がファシリテーターとして立ち会い、発表の仕方や資料の見せ方等についてコメントをしました。

すべての班の発表後、午後のシンポジウムで発表する代表班を学生自身の話し合いにより選出しました。代表班選出後、シンポジウムで発表する代表班のために、会場の学生が意見を話し合い、発表内容や方法のブラッシュアップを行いました。

《奈良県の医療と病院に関するシンポジウム》

病院見学実習先から以下の4名の方々にコメントーターとしてお招きし、医看合同講義室でシンポジウムを開催しました。司会は、地域医療学講座の大前特任助教、ファシリテーターは、総合医療学講座の吉本教授、酒井教養教育部長が担当されました。

午前の発表会で代表となった6班が発表を行い、各班の発表後にはコメントーターの方々から実際の医療状況や各病院の現状、取組み内容も踏まえコメントをいただきました。すべての班の発表後に、全22班の投票により決定した1位～3位の班及びコメントーター特別賞の受賞班を追加し、酒井教養教育部長から表彰を行いました。

シンポジウムの最後には、コメントーターの方々から講評を賜りました。コメントーターの方からは、病院見学実習を含めた様々な授業が発表に活かされていることに感銘を受けたことや、今回の経験を活かし時代に応じた多様なスキルを持つ医師・看護師を目指してほしい、是非来年も病院見学に来てほしいことなどのコメントがありました。実際に見学した病院の方からお話を聞くことで、奈良の医療について考える学生にとってかけがえのない貴重な体験となりました。

【コメントーター】

南奈良総合医療センター 小島 康宣 病院長
済生会奈良病院 山田 高嗣 副院長
大和高田市立病院 川口 千晴 副院長
巽 美澄子 副看護局長

■ 奈良学を受講した学生の感想

「奈良学」を通じて、奈良医大の歴史と未来、奈良の奥深い歴史や文化を改めて学ぶ貴重な機会となりました。実際に奈良の各地に足を運び、奈良の文化を目の当たりにしたフィールドワークでは、奈良の魅力をより感じる事ができました。病院見学では、地域医療の現状や課題、その対策を医療の現場で直接学ぶことで、将来この奈良の地で良き医療人として貢献する将来像が明確になり、その決意がより強固なものになりました。私にとって、「奈良学」での五日間の学びは、奈良の魅力を知るだけでなく、この奈良の地で良き医療人として貢献するため、精進する原動力となりました。

1位の班を代表して医学科1年生の迎山さん

埼玉出身の私にとって、奈良学はとても興味深かったです。特に印象深く感じたのは、医療過疎の進む南部の救急を支えるドクターヘリの見学です。救命の最前線を間近に見て、その役割の重さを肌で感じる事ができました。また、普段何気なく歩いている今井町の歴史を知ること、いつもの風景がぐっと特別で愛着のあるものになりました。奈良の文化や医療の深さに触れ、6年間過ごす奈良に思い入れができました。

医学科総代 高橋さん

まず、5日間の奈良学を支えてくださった病院の皆様や講師の方々に深く感謝いたします。病院見学後の発表会では、医看合同班で行ったKJ法を用いた多角的な分析に対し、現役で現場で働いておられる専門家の方々から鋭くも温かい助言をいただきました。実社会の厳しさややりがいを肌で感じるとともにこの双方向の対話を通じて、私は奈良の医療課題を自分事として捉え、将来の多職種連携への志を強めることができました。現場の知恵に触れる、非常に濃密で有意義な5日間でした。ありがとうございました。

看護学科総代 山内さん



1位の班



2位の班



3位の班



コメントーター特別賞の班

2.13 TQM 大会・表彰式を対面開催しました

附属病院において、TQM (Total Quality Management (総合的質管理)) 活動の取り組みを推進しています。TQM 活動は、日頃業務で感じている課題や問題点について、職員自ら主体的に課題解決に取り組むことで、職員の改善意識の向上を図ることを目的としています。さらに活動成果を業務に活かすこと、そして当院の医療・サービスの質を継続的に向上させていくことも目的としています。

今年度で11回目となる本大会に、今年度より活動を開始した13グループが参加し、趣向を凝らした活動内容と成果を発表しました。また、医療安全・教育質向上プロジェクトの委員が審査を行い、表彰式も行いました。

日々の業務の中から生まれた問題点とそれに対する課題への改善行動は、各グループの特色が見え、多職種にも参考となる内容のものが多数ありました。成果発表を行ったグループには、今後も継続して取り組むことを期待しています。



TQM大会の様子



TQM大会・表彰式後に撮影

■参加グループ一覧【活動内容をお知りになりたい場合は、医療の質・安全管理センターまでお問合せください。】

グループ名	活動テーマ	所属	備考
プロジェクト楽働	Let's have fun at Nursing Management!!	D棟、B棟8階、C棟6階	
DDRC (Developing disaster response capabilities)	南海トラフ地震・多数傷病者事故に備えよう!	高度救命救急センター ICU	院長賞
注射薬の返品を減らし隊	注射薬の返品減少に向けた取り組み	薬剤部	
シャッターピカピカ隊	パシャッ!の瞬間も感染ゼロ大作戦!	中央放射線部、NICU/GCU、感染管理室	
B6消臭りき	B6病棟をいい匂いに。	B棟6階、消化器外科・小児外科・乳腺外科	
患者さんの思いに寄り添い隊	より効果的な緩和IVR術前訪問の検討	中央放射線部、緩和ケアセンター、放射線・核医学科	プロジェクト・リーダー賞
ICU Risk Hunters	安全第一!	C棟3階、麻酔科、心臓血管外科、循環器内科、医療技術センター、薬剤部	1位
こどもといっしょにわくわくし隊	ガチャガチャプロジェクト	小児センター	3位
核医学災害対策チーム	核医学領域の災害を考える ~そのとき何が起こるのか、はじめよう!多職種合同災害訓練~	放射線治療室・化学療法室・緩和ケアセンター、総合画像診断センター、中央放射線部	2位
おなかチェック隊	AI情たっぷり説明で大腸内視鏡検査へご案内!	中央内視鏡部	
備え隊	備スコ〜災害に備える内視鏡部の力〜	中央内視鏡部	
総合診療科診療の質改善チーム	救急患者対応における情報共有の質改善活動	総合診療科、A棟4階、医療サービス課	
ナースのためのラダー取得応援隊	ラダー取得でステップUP & キャリアUP ☆	創傷相談室、E棟6階北、B棟6階、中央放射線部、看護実践・キャリア支援センター、中央手術部、看護部	

1.14 2.13 3.10 NARA 医工連携イニシオを開催しました

本学と奈良先端大が共同で設立した一般社団法人奈良先端医工科学連携機構による「NARA 医工連携イニシオ」の第5回、第6回、第7回がオンライン配信にて開催されました。本事業は両大学の研究連携を深化させることを目的としたリレー形式の定期セミナーで、毎月第2週に開催をしております。

1月は本学眼科学 加瀬諭教授に「網脈絡膜循環の病態研究」と題して、加瀬教授がこれまで行ってきた網膜や眼腫瘍の循環の研究や今行っている眼底の研究等について講演いただきました。2月は奈良先端大 バイオ・発生医科学 笹井 紀明 教授に「希少遺伝性眼疾患に対する汎用的治療法の開発ー網膜疾患の初期症状を捕捉する遺伝子治療ー」と題して、先生が10年ほど取り組んでいる研究についての治療法開発と今後の検討について講演いただきました。3月は本学脳神経外科学 中川一郎教授に「虚血性脳卒中に対する新たな治療法の開発」と題して臨床を中心に脳神経外科での取り組みや研究について講演していただきました。

どの講演にも多数の参加があり、質疑応答では活発な議論が行われました。

開催については、一斉メールにてお知らせいたします。皆様のご参加お待ちしております。

2.18

第2回おしゃれターバンケア帽子体験会を開催しました

MBT コンソーシアム会員の(株) Bonrich (代表取締役：フルサワケエコ氏)のご厚意により、昨年秋に多数のおしゃれターバンをご寄附いただきました。その有効活用として、奈良医大附属病院に入院・通院されているがん患者様をはじめ、ご家族や支援者の方々を対象に、ターバン帽子の着用体験会を実施し、参加者にはそのままプレゼントする取り組みを昨年11月に開始しました。今回はその第2回目の開催となります。案内チラシを見て興味を持って参加された方、診察や薬の待ち時間を利用して立ち寄られた方など、参加動機はさまざまでしたが、当日は14名の参加がありました。参加された女性のお一人からは、「おしゃれをすると気分が高揚し、免疫力も高まると感じます。ぜひ多くの方にも呼びかけ、健康づくりにつなげてほしいです」という熱いご意見も寄せられました。



体験者にターバンの巻き方をレクチャーするフルサワケエコ氏

2.24

「分子をミル」創薬基盤の完成

脳神経内科学 教授 杉江 和馬

モルミル株式会社 代表取締役 森 英一朗
未来基礎医学 准教授

奈良医大発スタートアップのモルミル株式会社は、2024年4月に分子動態創薬共同研究講座を設置して以降、本学との共同研究に取り組んで参りました。この度、本学、産業技術総合研究所、徳島大学との共同研究によるアカデミア・シーズの融合を通じて、「分子をミル」(分子の動きを可視化する)創薬基盤の開発に取り組み、当該技術を完成させました。この成果を、プレスリリースと記者会見を通じて、発信しました。



2.25

Forbes Japan で紹介

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

奈良医大発スタートアップのモルミル株式会社が、2026年2月25日に発行・発売されたForbes Japan (世界的なビジネス誌Forbesの日本版)のディープテック企業を特集した企画「JAPAN'S EMERGING DEEPTECH 30」に掲載されました。本特集は、「世界を変える技術の宝庫 地域発エマージング・ディープテック」をテーマに、日本各地の大学等から生まれる先端技術企業を紹介する企画です。モルミルは、PICK UP 企業の一社として取り上げられました。



2.26

日本神経学会主催「産官学イノベーションスクール」の教育講演を行いました

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

日本神経学会主催「産官学イノベーションスクール」の教育講演で、「アカデミアの叡智を集結 ～ALSが治る未来の実現に向けて～」と題して講演しました。教育講演のもう1つの演題は、京都大学総合研究推進本部 参与 特定教授・高橋良輔先生による「パーキンソン病のiPS細胞移植治療：期待と課題」でした。日本のアカデミア発の神経難病治療の現在と今後について、活発な議論が交わされました。



3.6 令和7年度 リサーチ・クラークシップ成果発表会を開催しました

医学科2年生を対象に、学内の研究室及び学外の大学・研究機関で研究室配属実習を行う「リサーチ・クラークシップ」を1月5日(月)～3月6日(金)の約9週間実施しました。本科目は、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得することによって、研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解して research mind を培うことを目的としたプログラムです。今年度は、海外7機関、国内24機関及び学内41講座等で実施しました。また、最終日の3月6日(金)には、成果発表会を10班に分かれて開催し、約9週間の実習成果の発表を行いました。



成果発表会 優秀賞受賞者の表彰式

今回のリサーチ・クラークシップでは、化学教室の酒井宏水教授のご紹介により、防衛医科大学校免疫微生物学講座の木下学教授のもとで、LPS プレコンディショニングが獲得免疫に及ぼす影響について研究しました。

研究に取り組んだ経験がなく、研究がどのようなものか理解していませんでしたが、今回の実習を通してその大変さを実感しました。今回の研究では、マウスの様々な臓器を調べ、多くのデータを得ましたが、実際に影響が見られた部分はその中のほんの一部でした。さらに、データを集める作業は数人がかりで取り組まなければならないほど大変でした。しかし、その分結果が出た時の達成感は大きいものでした。

最後に、このような機会を与えてくださった酒井教授、木下教授をはじめ、ご指導いただいた先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(後列右端 西江 悠登さん)

第一生理学教室齋藤康彦教授の御紹介によりアメリカのオハイオ州立大学谷口弘樹先生の研究室で実習させていただき、慢性疼痛下において大脳皮質のニューロンが示す神経活動について研究を行いました。

動物を用いた実験手技や画像処理、資料作成についてご指導いただき、研究者に必要なスキルを多く学びました。動物実験は動物の扱い方の習得、動物の状態に合わせた実験計画を必要とし、難しさを感じることもありましたが、自らの手で結果が得られた時は大きな達成感を感じました。また、知識面や言語面において自身の未熟さを痛感し、更なる学習への意欲も生まれました。この経験を今後の勉学に活かすべく精進していきたいと思えます。最後になりましたが本実習にご協力いただいた皆様から感謝申し上げます。

(前列左端 野原 千紗子さん)

私は今回のリサーチ・クラークシップでは、循環器内科学講座の野木先生、経堂先生、彦惣先生のもと「心不全入院患者における予後予測モデルであるA2Bスコアのさらなる改良」をテーマにNARAHFstudyを用いた観察研究に取り組みました。

研究における基礎知識がほとんどない状態で臨んだ実習でしたが、先生方が熱心かつ丁寧に指導してくださったおかげで何とかやりきる事ができました。研究に取り組む中で、思った通りの結果が出ず、大変な時はありましたが、先生方の手厚いサポートもあり、試行錯誤を重ねながら、一步一步着実に研究を進めることができました。

今回のリサーチ・クラークシップでは臨床医として勤務しながら研究に取り組む臨床研究のあり方の一端を感じることができました。将来の選択肢が広がり大変貴重な機会でした。

(前列右から2番目 松好 咲季さん)

本年度のリサーチ・クラークシップは、学内41教室、学外(国内)24機関、学外(海外)7機関のご協力のもと、無事に終了することができました。成果発表会では「2か月間の成果を発表するには発表時間が短すぎる」との声も聞かれ、学生の熱意の表れとして受け止め、喜ばしく感じております。また、研究を通じて多少なりとも自分の得意分野を見いだせたと実感する学生も少なくなかったものと思います。会場を新キャンパスに移して初めての開催となりましたが、諸先生方ならびに教育支援課の皆様のご協力により、円滑に行うことができました。今後とも本プログラムへの変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。(科目責任者 堀江基礎教育部長)

3.19 共同研究助成事業 成果報告会を開催しました

協定大学である奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化を目的に、令和元年より共同で共同研究助成事業を行っております。毎年度末には研究成果報告会を実施しており、今年も下記採択課題について助成事業終了による成果報告会を開催しました。

「アスタキサンチンとクロロフィルの複合化による相乗的な活性酸素消去機能とその機序の解明」

本学代表者：化学 酒井 宏水 教授
奈良先端大共同研究者：光反応分子科学研究所 河合 壯 教授

アジュバント併用肝動脈化学塞栓術が拓く腫瘍免疫微小環境の変容：
ラット肝細胞癌モデルを用いた免疫学的・放射線学的解析

本学代表者：放射線診断・IVR学 南口 貴世介 助教
奈良先端大共同研究者：機能ゲノム医学研究室 石田 靖雅 准教授
分子免疫制御研究室 河合 太郎 教授



化学 酒井宏水 教授 化学 山田 孫平 先生

また、MSTeCNARA 企画調整委員会では共同研究助成事業の選考を行い、令和8年度の採択は、下記の2件に決定いたしました。

オートファジー機能低下と細胞競合による老化細胞排除との因果関係

本学代表者：生化学 中村 修平 教授
奈良先端大共同研究者：遺伝子発現制御研究室 松井 貴輝 准教授

足・足関節に対する単純X線像からの3次元モデル推定AIの構築とその臨床応用

本学代表者：整形外科学 黒川 紘章 学内講師
奈良先端大共同研究者：情報科学領域 大竹 義人 准教授



放射線診断・IVR学 南口貴世介 助教

受賞者報告

Winner Report

10.23

第29回日本神経感染症学会総会・学術大会において会長賞を受賞しました

脳神経内科学 医員 大橋 智仁

このたび、第29回日本神経感染症学会総会・学術大会において会長賞を受賞いたしました。受賞演題は「Cryptogenic new-onset refractory status epilepticus (C-NORSE) における炎症性サイトカインの推移とトシリズマブの治療効果」です。本報告では、髄液中の炎症性サイトカインの経時的なフォローが病勢の評価に有用であり、またトシリズマブの早期導入が臨床転帰の改善につながり得ることが示唆されました。本発表に当たりご指導いただきました杉江教授をはじめ、多くの先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。



10.31

第33回日本消化器関連学会週間において優秀演題賞を受賞しました

消化器内科学 学内講師 藤永 幸久

第33回日本消化器関連学会週間(JDDW2025)において、「第3世代狭帯域光(3G-NBI)観察と白色光(WLI)観察による早期胃癌の発見率の比較：単施設ランダム化比較試験」で優秀演題賞を受賞しました。今回の受賞は、日頃よりご指導いただいている先生方、および共同研究者の先生方の多大なるご協力、ならびに本研究にご協力いただいた医療スタッフの皆様のご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。



Winner Report

11.19

国際的AI開発コンテスト [AI Genesis Hackathon] で総合優勝しました

戦略的医療情報連携推進講座 / 総合画像診断センター / 教育開発センター 講師 山内 哲司

本学卒業生の三宅先生が、Anthropic 社主催のコンテスト Claude Hackathon 2025 in Tokyo で準優勝、さらにドバイで行われた国際コンテスト AI Genesis Hackathon で総合優勝という偉業を成し遂げ、非エンジニアでも現場発のツール開発が可能である前例を作りました。

天理よろづ相談所病院 臨床研修医 三宅 冬人

スマホを使って 10 秒間の動画からバイタルサインなどを抽出し、その結果を元に AI がトリアージするシステムを単独開発し、国際コンテスト (参加者 4,800 名超) で優勝しました。在学中から、山内先生に現場で開発する医療 AI の将来性についてご指導いただき、また公衆衛生学では医療の構造的課題への視座を得ました。現在も、嶋学長ならびに戦略的医療情報連携推進講座の先生方にサポートしていただいております。引き続き AI × 医療の実現に精進してまいります。



11.27

令和7年度奈良県医師会 学術奨励賞を受賞しました

(受賞者) 産婦人科学 助教 前花 知果

奈良県医師会館において、令和7年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞式が執り行われました。奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために、医師会会員歴1年以上の40歳未満、かつ有意義な研究成果をあげ、後進の指導にも熱意を有する者に奈良県医師会より贈呈される賞です。本学からは、産婦人科学の前花先生の受賞の決定がありました。本学術奨励賞は、毎年6月頃に応募案内をしております。若手研究者の方々の積極的なご応募をお待ちしております。



11.30

第95回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第73回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会にて優秀賞を受賞しました

大学院修士2年 岡本 琴音

第95回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第73回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会の若手臨床検査技師セッションにて、優秀賞をいただきました。演題は「血液培養より検出したESBL産生大腸菌の分子遺伝学的解析」です。血液培養由来ESBL産生大腸菌の遺伝子型・分子疫学的特徴と薬剤感受性の関連を解析し、検出された株の特徴を示しました。ご指導いただいた矢野教授、中野准教授、微生物感染症学講座の先生方に深く感謝申し上げます。

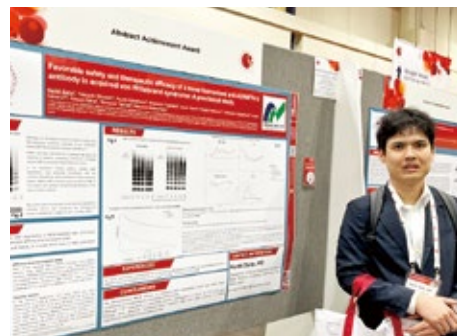


12.6

ASH2025においてAbstract Achievement Awardを受賞しました

輸血部 診療助教 齋藤 健貴

このたび、2025年12月6日から9日に米国・オーランドで開催された67th ASH Annual Meetingにおいて発表した演題「Favorable safety and therapeutic efficacy of a novel humanized anti-ADAMTS13 antibody in acquired von willebrand syndrome: A preclinical study」を評価いただき、Abstract Achievement Awardを受賞しました。私達は、機械的補助循環の出血性合併症の原因の一つである後天性 von Willebrand 症候群に対する新たな治療薬として抗ADAMTS13抗体 (HA10) の開発を進めており、今回は機械的補助循環装着カニクイザルでのHA10の有効性、ならびに健常カニクイザルでのHA10の安全性を報告しました。Phase 1試験実施に向けて引き続きHA10の特性を検証していきます。日頃より厚くご指導いただいております松本雅則先生をはじめ、多くの先生方にこの場をお借りし感謝申し上げます。



12.13

第132回日本神経学会近畿地方会 優秀演題賞を受賞しました

脳神経内科学 後期研修医 鈴木 裕太郎

このたび、12月13日に神戸国際会議場で開催された第132回日本神経学会近畿地方会で「慢性髄膜炎と繰り返す痙攣発作を契機にリンパ形質細胞性リンパ腫(LPL)によるBing-Neel症候群と診断した一例」に対して優秀演題賞を受賞いたしました。今回の受賞を励みに今後一層精進して参ります。

ご指導いただきました菅田真由先生、杉江和馬教授、ならびに日頃より多大なるご指導を賜っている皆様に、心より御礼申し上げます。



12.19

令和8年度野澤記念研究助成金に 採択されました

産婦人科学 助教 河原 直紀

日本婦人科腫瘍学会が公募する令和8年度野澤記念研究助成金に、「HNF-1βを発現する卵巣明細胞癌のROS回避機構を利用した新しい治療法の開発」と題した申請を行い、このたび採択されました。当講座では、がん細胞内に存在するミトコンドリアの機能を再活性化させ、がん細胞を選択的に駆逐するという、全く新しい概念に基づく治療戦略について研究を進めてきました。今回の研究は、この戦略をより臨床応用しやすくするため、既存の漢方薬とシスプラチンを併用することでも著明な抗腫瘍効果が得られることを示したものです。本成果は、当講座の木村文則教授をはじめ、日頃より多大なるご指導を賜っている先生方、ならびに多くのスタッフの皆様のご理解とご支援の賜物であり、ここに深く感謝申し上げます。がん治療において、既存の方法では治療選択肢がなくなってしまった患者さんに、少しでも新たな可能性を提供できるよう、今後も研究に邁進してまいります。

1.23

日本医学放射線学会 第36回骨軟部放射線 研究会フィルムリーディングセッションにて 1位を受賞しました

放射線診断・IVR学 医員 渡邊 紘英

1月23日～24日に開催された日本医学放射線学会 第36回骨軟部放射線研究会のフィルムリーディングセッションにおいて1位の成績を収め、表彰されました。骨軟部放射線研究会とは、骨軟部領域の画像診断を専門として扱う放射線科医中心の研究会です。放射線科の学会では、まれな症例画像を数問提示し診断名を当てる「フィルムリーディングセッション」が恒例行事となっており、全国の放射線科医が読影力を競う場となっています。

日頃よりご指導いただいている奈良県総合医療センター放射線診断科部長高濱潤子先生、貴重な機会を与えていただいた奈良県立医科大学放射線診断・IVR学講座教授田中利洋先生に厚くお礼申し上げます。



2.11

第18回近畿家庭医療・総合診療専攻医 ポートフォリオ発表会において最優秀賞を 受賞しました

総合医療学 医員 藤田 涼介

この度、第18回近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会(P-FES 2026)において最優秀賞を受賞いたしました。受賞演題は「長期にわたって通院と在宅療養を続けるパーキンソン病患者の在宅医として扇の要を担えた事例」です。在宅医として多職種連携の中心を担い、その振り返りと考察を行いました。ご指導いただきました吉本教授、阪本先生をはじめ多くの先生方、在宅医療チームの皆様にご心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、在宅医療を必要とする患者様に貢献できるよう一層努めてまいります。



Winner Report

令和7年度 学位授与の状況

博士 (医学)

次の39名に博士 (医学) の学位が授与されました。
(甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

学位授与日 令和7年6月26日 (木) 3名

(甲) 西森 裕佳子 臨床神経筋病態学
治村 寛信 視覚統合医学
富澤 満 泌尿器病態機能制御医学

学位授与日 令和7年9月25日 (木) 9名

(甲) 玉城 裕行 腎臓病態制御医学
菅田 真由 臨床神経筋病態学
土井 駿介 消化器機能制御医学
木納 潤一 精神医学行動神経科学
神川 浩平 精神医学行動神経科学
前阪 郁賢 前立腺小線源治療学
大井 彩子 臨床神経モニター学
叶 盛 循環器システム医科学
(乙) 西畑 陽介 精神医学行動神経科学

学位授与日 令和7年12月24日 (水) 6名

(甲) 新居田 泰大 公衆衛生学
池尻 正樹 運動器再建医学
大塚 進太郎 耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
山内 哲司 画像診断・低侵襲治療学
川島 浩正 総合臨床病態学
小津 有輝 臨床実証医学

学位授与日 令和8年3月10日 (火) 21名

(甲) 菅野 沙帆 公衆衛生学
高見 昌義 消化器病態・代謝機能制御医学
増田 泰之 消化器病態・代謝機能制御医学
水澤 裕太郎 視覚統合医学
新田 勇治 分子・細胞動態学
安福 祐一 公衆衛生学
竹本 聖 公衆衛生学
阪井 諭史 循環器病態制御医学
小原 啓弥 臨床神経筋病態学

井口 直彦 臨床神経筋病態学
竹井 健 消化器機能制御医学
小原 有一朗 消化器機能制御医学
上野 優樹 運動器再建医学
井上 貴雅 スポーツ医科学
梶本 昂宏 発達・成育医学
清水 一貴 発達・成育医学
萱島 善徳 精神医学行動神経科学
南 昭宏 精神医学行動神経科学
西 佑記 精神医学行動神経科学
西村 伸隆 泌尿器病態機能制御医学
齋藤 健貴 血液・血流機能再建医学

奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞

甲の学位論文申請者のうち主科目指導教員が推薦した者の中から医学の研究に最も優れた論文の申請者

井口 直彦 臨床神経筋病態学

修士 (医科学)

次の6名に修士 (医科学) の学位が授与されました。

釜江 直也 臨床実証医学
新家 伸久 画像診断・低侵襲治療学
須河 裕也 公衆衛生学
瀬島 和樹 臨床実証医学
岡本 琴音 微生物学
吉川 武志 先端画像下治療開発応用学

修士 (看護学)

次の9名に修士 (看護学) の学位が授与されました。

石井 香織 看護学コース論文コース (小児看護学)
鐘 家軍 看護学コース論文コース (在宅看護学)
孫本 美和 看護学コース論文コース (女性健康・助産学)
藪野 陽子 高度実践コース (周麻酔期看護学)
河南 充紀 助産学実践コース (女性健康・助産学)
北村 彩七 助産学実践コース (女性健康・助産学)
高井 愛花 助産学実践コース (女性健康・助産学)
谷口 美貴 助産学実践コース (女性健康・助産学)
丸尾 紗輝 助産学実践コース (女性健康・助産学)

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

今号では令和7年12月～令和8年3月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。心から御礼申し上げます。

【個人】

◆100万円以上

北口 勝康 様 國分 清和 様 辻本 達寛 様
掲載を希望されない寄附者様 1名

◆10万円以上30万円未満

浅田 秀夫 様 井上 進敬 様 大岡 均至 様 小森 浩幸 様
酒井 宏水 様 坂本 一喜 様
掲載を希望されない寄附者様 3名

◆金額の公表を希望されない寄附者様

礒橋 文明 様 中島 拓紀 様

◆30万円以上100万円未満

廣橋 里奈 様
掲載を希望されない寄附者様 1名

◆10万円未満

浪崎 正 様 濱崎 直樹 様 古橋 直樹 様 本田 孝雄 様
掲載を希望されない寄附者様 11名

【法人・企業】

◆100万円以上 一般社団法人 弘済会 様

◆10万円以上30万円未満 崇徳寺 様

公開講座情報

第8回わい和いNARA在宅サポート研究会研究発表会

地域で暮らす誰もがお互いを思い合いながら幸せな人生を歩むために、一人ひとりの中にある“ちから”や“支え”に気づき、強めることについて、みんなで“わいわい”と話し合いながら深めましょう。

テーマ：「共に支えを強める新たなカタチ～自分の中の“ちから”と“支え”に気づく～」

日時：2026年6月6日（土） 10:00～15:20

場所：奈良県立医科大学 畝傍山キャンパス 講義棟

大会長：久保田 千代美 (Chiyomi Kubota Care 研究所 代表)

プログラム：大会長による講演、シンポジウム（在宅診療医、看護師、病いや障害とともに生きる方々が登壇予定）、事例検討、日々の取り組みや活動に関するポスター掲示

対象者：医療福祉専門職者に限らず、どなたでもご参加いただけます

参加費：無料

申込み：5/29までを目途に、右記の二次元バーコードから申込み（当日参加も可）

問合せ先：わい和いNARA在宅サポート研究会事務局

（奈良県立医科大学 医学部看護学科 在宅看護学内）

TEL 0744-22-3051（内線693309、693311、693337）

Mail ynarak@naramed-u.ac.jp



お申し込みフォーム



Facebook

令和8年度入試結果

		募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (Bの内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率
医学科	推薦（緊急医師確保）	15	117	112	15	0	15	7.8	7.8
	推薦（地域枠）	21	99	97	21	0	21	4.7	5.6
	前期	22	48	34	23	1	22	2.1	2.2
	後期	53	1,085	254	59	6	53	18.4	16.1
	編入学（研究医）	1	2	2	1	0	1	2.0	3.0
	編入学	1	34	31	2	1	2	17.0	13.0
	小計	113	1,385	530	121	8	114	11.4	10.4
看護学科	推薦（地域枠）	35	75	75	35	0	35	2.1	2.7
	前期（一般枠）	40	61	57	44	4	40	1.4	1.2
	前期（地域枠）	10	27	26	10	0	10	2.7	4.3
	小計	85	163	158	89	4	85	1.8	2.2
医学部	合計	198	1,548	688	210	12	198	7.3	7.0

編集後記

若葉がまぶしい季節となりました。新年度を迎え、本学では新学長のもと新たな歩みが始まりました。本号では、本学のさまざまな取り組みや出来事に加え、卒業式・入学式の様子なども紹介しています。お忙しい日々のなか、ひととき足を止めてご覧いただけましたら幸いです。



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2026年 1月1日	南海日日新聞	化学	人工赤血球 実現へ一歩、実用化へ前進
1月5日	河北新報 岩手日日新聞	血液内科学	人工赤血球 実現へ一歩、実用化へ前進
1月12日	朝日新聞	理事長・学長 細井 裕司	細井・県立医大学長 退任控え 12年間振り返り出版 大学ブランド向上 五つの改革 育成・教授選考方法… 取り組み続く
1月13日	日刊工業新聞	化学 血液内科学	人工赤血球 実現へ一歩、実用化へ前進
1月14日	テレビ愛知 5時スタ	化学	冬に大ピンチ「血液が足りない」 若い世代の献血者不足も課題 保存期限が切れた血液を活用する研究も
1月17日	NHK Eテレ	疫学・予防医学	テーマである「暗闇」と健康の関係について解説
1月21日	ヴィランの言い分		
1月28日	NHK 奈良 ならナビ	化学 血液内科学	奈良県立医科大学附属病院で行われる人工赤血球の 研究と治験の様子を紹介
2月1日	東京新聞	脳神経内科学	サルサ楽しく踊って健康に 脳にも刺激 寝たきり・認知症予防に
2月4日	CBC テレビ 世にもニッチな研究室	名誉教授 大崎 茂芳	クモの糸で作ったバイオリン！その音色とは？
2月26日	奈良新聞	消化器内科学	～あなたの肝臓大丈夫？知っていますか “奈良宣言”
3月13日	NHK 名古屋 東海ドまんなか！	公衆衛生学	地元の病院がなくなる そのときあなたは？
3月18日	フジテレビ 世界の何だコレ!?ミステリー	名誉教授 大崎 茂芳	見たら思わず口にする「何だコレ!？」そのフシギを 徹底調査
3月28日	Yahoo! ニュース 共同通信	未来基礎医学	ALS、化合物で制御期待 治験へ製薬会社募る、奈良
3月29日	河北新報 他12社		
3月30日	奈良新聞	未来基礎医学	ALSの原因物質 化合物で制御期待 県医大チーム発表
3月30日	北陸中日新聞	未来基礎医学	ALS、化合物で制御期待 治験へ製薬会社募る、奈良
4月4日	NHK 総合 NHK NEWS おはよう日本	公衆衛生学	在宅医療についてコメント
4月6日	午後LIVE ニュースーン		
4月9日	NHK 京都 京いちにち	公衆衛生学	百年の歴史をもつ京都新町病院が先月末、廃院に。 その背景とは？
4月12日	朝日新聞	糖尿病・内分泌内科学	どうしました？下垂体機能低下症、対処は

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206



なかよし保育園 園児募集





英会話教室





体操教室





リズム遊び





交流保育
川上村のお友達と♪



募集の対象 0歳から5歳児（生後57日以降～）

開園時間 7:00～20:00 **保育日** 月曜から土曜日
土曜日は予約制
金曜日は夜間保育があります

見学も随時受け付けています
お気軽にお問い合わせください

問い合わせ先 総務広報課（内線2226）

詳細はこちらを
ご覧ください

